

D 履修ガイド

1	学修にあたって	D - 2
2	教育課程	D - 7
3	授業のしくみ	D - 16
4	科目履修	D - 26
5	試験	D - 38
6	成績	D - 44
7	進級と卒業	D - 49
8	学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧	D - 51

1 学修にあたって

1-1 大学で学ぶ

大学は「生涯学び続け、主体的に考える人材」を育成する場であり、学生は、主体的に問題を発見し解決していく能動的な学修へ転換する必要があります。

教えてもらう（＝学習）だけではなく、自らが進んで学問を身に付け修める（＝学修）場が大学です。

1-2 三つポリシー（三つの方針）について

大学は、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」、「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」の三つのポリシーを、一貫性あるものとして策定し、公表しています。入学から卒業まで一貫した方針を用いて大学教育を実践することにより、学生の学修成果を向上させ、学位授与にふさわしい人材を育成し社会に送り出すことを目指しています。

- ディプロマ・ポリシー（DP、学位授与の方針）は、大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針のことです。
ディプロマ・ポリシーは、学生にとって自身が身に付ける資質・能力の目安・指針となり、学修目標となるものです。
- カリキュラム・ポリシー（CP、教育課程編成・実施の方針）は、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方針を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針のことです。
- アドミッション・ポリシー（AP、入学者受入れの方針）は、大学、学部・学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」についてどのような成果を求めるか）を示すものです。

卒業までの見通しを持って学生生活を送るためにも、卒業までに求められる学修成果について定めるディプロマ・ポリシーや、ディプロマ・ポリシーを達成するために定められるカリキュラム・ポリシーについて、しっかりと理解しておく必要があります。

1-2-1 全学共通ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は、保健医療福祉の分野において高い知識と優れた技能と人間性を併せ備えた社会の要請に応え得る有為な専門職業人を育成することを目的としており、各学科において、人材の育成に関する目標を定めている。その実現のために、総合教育と専門教育に重点を置いた体系的なカリキュラムを構築し、学生に明示する成績評価基準に沿って厳格な成績評価を行う。卒業要件を満たす所定の単位を修得した者に対して、卒業を認定し、学位を授与する。

IUHW-DP1：専門職業人としての社会的責務と倫理観

専門職業人を目指す者として、社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけることができる。

IUHW-DP2：保健・医療・福祉への貢献とコミュニケーション能力

保健・医療・福祉への貢献のため、専門領域へつながる基礎的な学力を養い、多職種を理解し、専門領域を超えて問題を探究する姿勢とコミュニケーション能力を身につけることができる。

IUHW-DP3：専門的な知識と技能を活用する能力

各学科における目的に沿った専門分野を極め、専門職に必要とされる高度な専門的知識や技術を身につけることができる。

IUHW-DP4：創造的な問題解決力と生涯学習力

様々な状況において備えた高度な専門的知識や技術力を統合して創造的な問題解決に取り組み、自身の更なる発展のため、生涯学習を行うことの重要性を知り、新しい知識を追求（研究活動）する方法を身につけることができる。

本学では、上記の全学ディプロマ・ポリシーを基盤に、各学科の専門性を考慮したディプロマ・ポリシーを学科ごとに設定している。

※各学科のディプロマ・ポリシーは「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照してください。

1-2-2 全学共通カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学は、「人間中心の大学」「社会に開かれた大学」「国際性を目指した大学」という理念のもと、「共に生きる社会」を実現するため、幅広い教養科目を基礎におき、専門分野に関する科目については体系的に構成する、総合教育と専門教育に重点を置いたカリキュラムとなっている。以下に本学のカリキュラム体系を示す。

IUHW-CP1 :

幅広い教養や視野、国際センス、思考力を備えた豊かな人間性を養うための総合教育科目

IUHW-CP2 :

有益なコミュニケーション能力、関連職種との連携能力および問題解決能力を身につけた専門職業人を育成するための専門基礎科目

IUHW-CP3 :

保健医療福祉のプロフェッショナルになるための専門知識および技術、さらに新しい知識を探究する方法を身につけた専門職業人として、社会に貢献できる人材を育成するための専門科目

本学では、上記のカリキュラム体系を基盤に、4つの学士力である「知識、理解」「総合的な学習経験と創造的志向」「汎用的技能」「態度、志向性」を柱とするカリキュラム・ポリシーを学科ごとに設定している。また、各学科では教育目標を学生が達成できるよう、カリキュラム・ポリシーに則り教育課程を編成・実施する。

※各学科のカリキュラム・ポリシーは「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照してください。

1-2-3 全学共通アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学が入学者に求める要件

本学は、建学の精神である「共に生きる社会の実現」に基づく深い人間理解の上に、高度な知識・技能を修得し、また多職種と連携・協働してその責務を果たし、日々進化する保健・医療・福祉分野の需要に対応できる指導的な人材の育成を実現すべく、学生、社会人、留学生、帰国生徒に対して学修の機会を提供し、このような社会的な需要に応える教育を展開するものである。本学が入学者に求める要件は、以下のとおりである。

1. 知識・技能

幅広い教養と視野を備えた豊かな人間性を養うため、積極的に自らを磨いていける人。なお、日々進化する保健・医療・福祉分野における高度化・専門化及び国際化に対応し学びを深めるために、入学までに身につけていることが望ましい内容は以下のとおりである。

【国語】物事を的確に理解し、論理的に思考し表現するために必要な国語の文章力と読解力、

言語によるコミュニケーション能力

【地理歴史・公民】多様な文化や歴史、価値観、生活背景を持つ他者を理解するために必要な基礎知識

【数学】論理的かつ数量的に物事を考え表現するために必要な数学的知識と技能

【理科】自然の現象や人体に関する諸問題を科学的に理解するために必要な自然科学（物理、化学、生物）に関する基礎知識

【英語】国際的視点で物事をとらえ、諸外国の人々と交流するために必要な基礎的な英語の理解力とコミュニケーション能力

2. 思考力・判断力・表現力

- これからの中の時代の保健・医療・福祉分野を担っていくこうとする情熱を持ち、自ら積極的に学ぶ意欲や課題を発見し解決する能力を有していること。
- 保健・医療・福祉分野における情報科学技術の高度化・専門化及び国際化に対応するため、幅広い関心と好奇心を持って努力を継続できる人であること。
- 学業・社会貢献・技術・文化・芸術・スポーツの分野で優れた活動実績を有し、本学で修得した技術をもとに、将来それぞれの分野で活躍したいという意欲を持つ人であること。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- 本学の基本理念及び教育理念を十分に理解し、専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を持つ人であること。
- あらゆる人に対して自らの心を開き、コミュニケーションをとれる人であること。
- 本学での学びを生かし、将来、母國あるいは国際社会において、保健・医療・福祉分野の発展に貢献したいという強い意志を持つ人であること。

1-3 修業年限・在学年限・学位授与

本学部・学科の本学の教育課程を修了するために必要な期間（修業年限）および授与する学位は次のとおりです。

学部	学科	修業年限	学位
小田原保健医療学部	看護学科	4年	学士（看護学）
	理学療法学科	4年	学士（理学療法学）
	作業療法学科	4年	学士（作業療法学）

*休学・停学期間は修業年限に算入しません。

*小田原保健医療学部においては8年を超えて在学することはできません。

2 教育課程

国際医療福祉大学には、医療福祉専門職としての専門的な知識や技術の修得にとどまらず、幅広い視野と豊かな人間性を育む教育課程が用意されています。

2-1 教育課程の構成

2-1-1 授業科目の区分

授業科目は、幅広い教養を学ぶ「総合教育科目」と高度な専門知識や技術を学ぶ「専門教育科目」により構成されています。

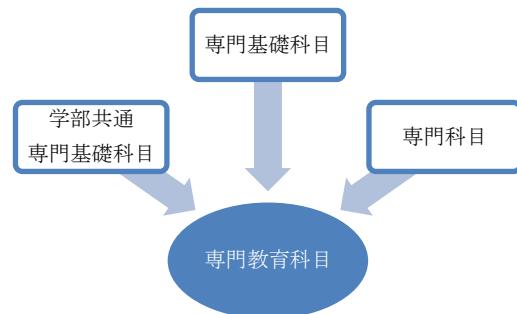
(1) 総合教育科目

- 総合教育科目は、幅広い視野と豊かな人間性を育むとともに、専門教育を受けるうえで必要となる基本的な知識を修得する科目です。科目により、人間系科目、社会系科目、自然・情報系科目、総合系科目、外国語系科目、保健体育系科目の6つの系統に分類されています。
- 4年間にわたり学べる機会が設けられており、原則としてキャンパス共通の開講科目となっています。
- 外国語系科目的英語は実用性を重視した内容になっています。



(2) 専門教育科目

- 専門教育科目は、専門職において必要となる専門的な知識や技術を修得する科目です。科目により専門基礎科目と専門科目に分類されています。
- 専門基礎科目は、専門科目(高度な専門的知識・技術)を学ぶための前提となる知識・技術を学ぶ科目です。医療関連専門職として共通して修得すべき科目である学部共通専門基礎科目と学科独自に開講される専門基礎科目に分かれています。
- 専門科目は、高度な専門的知識・技術を修得するための科目であり、学科独自の開講科目になっています。



2-1-2 必修科目・選択科目・自由科目の区分

授業科目には必ず修得しなければならない科目と学生が自主的に選択できる科目の区分があります。

区分	説明
必修科目	卒業資格を得るために必ず単位を修得しなければならない授業科目です。すべての必修科目の単位を修得しなければ卒業することができません。
選択科目	定められた選択科目の中から、学生が自主的に選択して履修する授業科目です。定められた単位数以上修得しないと卒業することができません。 選択科目には、指定されているいくつかの科目の中から、各学科の要件に従って必ず選択して履修し、単位を修得しなければならない科目があります。
自由科目	選択科目と同様に定められた科目の中から、学生が自主的に選択して履修する科目です。単位を修得することができますが、進級や卒業に必要な単位数には算入されません。

2-1-3 科目の配当年次

授業科目は、科目ごとに開講される学年が定められています。これを配当年次といいます。教育課程は、各授業科目を各学年に配当して編成されます。

配当年次は、「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」の授業科目一覧で確認することができます。

2-2 DP-教育目標カリキュラムマップ／履修系統図

教育課程は、ディプロマ・ポリシーに掲げる学修目標を達成するために、カリキュラム・ポリシーのもとで体系的かつ組織的に編成されたものです。教育課程を構成する個々の授業科目には、学修目標の達成に向けて担うべき役割があります。

卒業までの見通しを立てながら主体的に学修を進めるためには、個々の授業科目が、教育課程内でどの科目と関連し、学生がどのような資質・能力を獲得するために設定されているか、各授業科目が担う役割を把握しておくことが重要です。

2-2-1 DP-教育目標カリキュラムマップ

DP-教育目標・カリキュラムマップは、教育課程を構成する個々の各授業科目が、ディプロマ・ポリシーや教育目標とどのように対応しているか、その体系を明確にするためのものです。

各授業科目が教育課程の中で果たす役割、つまり、学生が身に付けることが期待される知識・技能・態度と授業科目との対応関係を確認することができます。

2-2-2 履修系統図

履修系統図は、カリキュラムツリーともよばれ、授業科目相互の関係や、学位取得に至るまでの履修順序（配当年次）など、授業科目の系統性を示したものです。カリキュラムの全体像を俯瞰することができ、履修の計画を立てやすくなります。

各学科の教育課程については、「D. 履修ガイド」の「8. 学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照してください。

2-3 科目ナンバリング

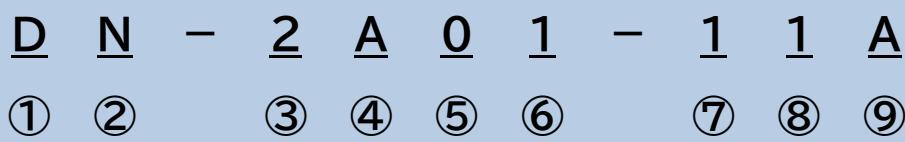
2-3-1 科目ナンバリングとは

科目ナンバリングとは、授業科目の学問分野や難易度等を適切な番号や記号をつけて分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を分かりやすく示す仕組みのことです。学生は、ナンバリングコードでその授業科目の学問分野や難易度等の科目の位置付けを把握したうえで履修することができます。本学では、9桁のナンバリング構成とし、シラバスでも明示します。

2-3-2 科目ナンバリング体系

本学における科目ナンバリングは下記の構成となります。なお、ナンバリングコードは、毎年度毎に付番するのではなく、原則として授業科目に固定したものとします。

ナンバリングコード



各コードの意味

- ① 桁：キャンパス／学部・特別専攻科・大学院研究科・専攻コード
- ② 桁：学科・分野／課程（コース）の固有識別コード
- ③ 桁：科目分類（大分類）
- ④ 桁：科目分類（中分類）
- ⑤⑥桁：科目分類（小分類）整理番号
- ⑦ 桁：必修／選択および難易度一水準コード
- ⑧ 桁：配当年次および使用言語
- ⑨ 桁：授業形態および主要科目コード

2-3-3 ナンバリングコード表

①桁目：キャンパス／学部・特別専攻科・大学院研究科・専攻コード

【アルファベットまたは数字1桁】

コード	キャンパス／学部・特別専攻科	コード	大学院研究科・専攻
O	(大田原) 保健医療学部	1	(大学院) 医療福祉学研究科保健医療学専攻(博士課程)
O	(大田原) 医療福祉学部	2	(大学院) 薬学研究科医療・生命薬学専攻(博士課程)
T	(大田原) 薬学部	3	(大学院) 医学研究科医学専攻(博士課程)
M	(成田) 医学部	4	(大学院) 医療福祉学研究科保健医療学専攻(修士課程)
N	(成田) 成田看護学部	5	(大学院) 医療福祉学研究科医療福祉専攻(修士課程)
N	(成田) 成田保健学部	6	(大学院) 医療福祉学研究科臨床心理学専攻(修士課程)
R	(成田) 成田薬学部	7	(大学院) 薬科学研究科生命薬科学専攻(修士課程)
N	(成田) 特別専攻科(介護福祉)	8	(大学院) 医学研究科公衆衛生学専攻専門学位過程(修士課程)
A	(東京赤坂) 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部		
D	(小田原) 小田原保健医療学部		
F	(大川) 福岡保健医療学部		
K	(大川) 福岡薬学部		

②桁：学科・分野／課程（コース）の固有識別コード【アルファベット1桁】

コード	学科・分野／課程（コース）	コード	学科・分野／課程（コース）
N	看護学科、看護学分野	F	医療福祉学研究科助産学分野
P	理学療法学科、理学療法学分野	N	医療福祉学研究科修士課程特定行為看護師養成分野
O	作業療法学科、作業療法学分野	N	医療福祉学研究科博士課程高度実践看護師養成課程
S	言語聴覚学科、言語聴覚分野	T	医療福祉学研究科福祉支援工学分野
C	視機能療法学科、視機能療法学分野	X	医療福祉学研究科リハビリテーション学分野
R	放射線・情報科学科、放射線・情報科学分野	E	医療福祉学研究科生殖補助医療胚培養分野
M	医学検査学科、臨床検査学分野	K	医療福祉学研究科医療福祉教育・管理分野
P	薬学科、生命薬学分野・医療薬学分野	D	医療福祉学研究科災害医療分野
H	医療福祉・マネジメント学科(大田原)	G	医療福祉学研究科遺伝カウンセリング分野、医療遺伝学分野
H	医療マネジメント学科(赤坂)	V	医療福祉学研究科医療機器イノベーション分野
Y	心理学科、臨床心理学分野	L	医療福祉学研究科診療情報アリスト養成分野、診療情報管理・分析学分野
W	介護福祉特別専攻科	Z	医療福祉学研究科先進的ケアネットワーク開発研究分野
A	医学部医学科、医学研究科医学専攻	H	医療福祉学研究科医療福祉学分野
A	医学研究科公衆衛生学専攻	J	医療福祉学研究科医療福祉ジャーナリズム分野
B	医療福祉学研究科医療経営管理分野、医療福祉経営学分野	I	医療福祉学研究科医療通訳・国際医療マネジメント分野

※大学院も含む

③桁：科目分類（大分類）【数字1桁】

コード	科目分類（大分類）
0	総合
1	専門基礎-学部共通
2	専門基礎
3	専門

④桁：科目分類（中分類）【数字またはアルファベット1桁】

区分	コード	科目分類（中分類）
総合区分	1	人間系
	2	社会系
	3	自然・情報系
	4	総合系
	5	外国語系（英語）
	6	外国語系（その他の外国語）
	7	保健系

※「専門基礎区分」「専門区分」は学科によって区分が異なる。

【小田原キャンパス 学科別科目分類コード】

看護学科		
区分	コード	科目分類（中分類）
専門基礎区分	0	専門基礎学部共通
	1	健康支援と社会保障制度
	2	人体の構造と機能
	3	疾病の成り立ちと回復の促進
	4	関連科目
	5	養護教諭コース専門基礎科目
	6	保健師コース専門基礎科目
専門区分	A	基礎看護学
	B	地域・在宅看護学
	C	公衆衛生看護学
	D	成人看護学
	E	老年看護学
	F	小児看護学
	G	リプロダクティブヘルス看護学

看護学科		
区分	コード	科目分類（中分類）
専門区分	H	精神看護学
	I	看護管理学
	J	災害・感染看護学
	K	国際看護学
	L	統合看護分野
	M	公衆衛生看護学
	N	保健師コース専門科目
	O	養護教諭コース専門科目

理学療法学科			作業療法学科		
区分	コード	科目分類（中分類）	区分	コード	科目分類（中分類）
専門基礎区分	0	専門基礎学部共通	専門基礎区分	0	専門基礎学部共通
	1	基礎医学		1	基礎医学
	2	臨床医学		2	臨床医学
	3	関連医学		3	関連医学
専門区分	A	理学療法治療基礎科目	専門区分	A	作業療法基礎学群
	B	理学療法評価基礎科目		B	作業療法評価学群
	C	運動系理学療法科目		C	作業療法適用学群
	D	スポーツ理学療法科目		D	障害代償学群
	E	神経系理学療法科目		E	作業療法応用学群
	F	内部障害系理学療法科目		F	臨床教育
	G	キャリアデザイン系科目、 理学療法研究科目			
	H	国際系科目、多職種連携・ 理学療法学際領域科目			
	I	理学療法演習・実習科目、 国家試験対策科目			

⑤⑥桁：科目分類（小分類）整理番号 【数字2桁】

科目を管理するための2桁の整理番号。（01～）

⑦桁：必修／選択および難易度－水準コード【数字1桁】

コード	必修／選択および難易度－水準コード
1	必修：基礎的な内容で入門的な難易度
2	必修：基本発展的な内容で中間的な難易度
3	必修：応用専門的な内容で比較的高度な難易度
4	選択必修（コースにより必修等）：基礎的な内容で入門的な難易度
5	選択必修（コースにより必修等）：基本発展的な内容で中間的な難易度
6	選択必修（コースにより必修等）：応用専門的な内容で比較的高度な難易度
7	選択（又は自由）：基礎的な内容で入門的な難易度
8	選択（又は自由）：基本発展的な内容で中間的な難易度
9	選択（又は自由）：応用専門的な内容で比較的高度な難易度

⑧桁：配当年次および使用言語

【数字またはアルファベット1桁】

コード	必修／選択および難易度－水準コード
1	1年次または1年次以上配当（日本語）
2	2年次または2年次以上配当（日本語）
3	3年次または3年次以上配当（日本語）
4	4年次または4年次以上配当（日本語）
5	5年次または5年次以上配当（日本語）
6	6年次配当（日本語）
7	全学年で修得できる授業科目（日本語）
8	比較的低学年（1～2学年）で修得する授業科目（英語など外国語科目）
9	比較的高学年（3～4学年）で修得する授業科目（英語など外国語科目）
0	全学年で修得できる授業科目（英語など外国語科目）
A	1～2学年の低学年で2年間で修得する日本語科目
B	2～3学年の中学年で2年間で修得する日本語科目
C	3～4学年の高学年で2年間で修得する日本語科目
D	比較的低学年で3年間以上で修得する日本語科目
E	比較的高学年で3年間以上で修得する日本語科目
F	上記以外の日本語科目（飛び飛びの学年設定など）
G	上記以外の外国語科目

⑨桁：授業形態および主要科目コード

【アルファベット1桁】

コード	必修／選択および難易度－水準コード
A	講義形式－主要科目で資格取得と関連した科目
B	講義形式－主要科目、資格取得とは関連しない
C	講義形式－主要科目以外の科目
D	演習形式－主要科目で資格取得と関連した科目
E	演習形式－主要科目、資格取得とは関連しない
F	演習形式－主要科目以外の科目
G	実習形式－主要科目で資格取得と関連した科目
H	実習形式－主要科目、資格取得とは関連しない
I	実習形式－主要科目以外の科目
J	卒業研究/研究指導－主要科目で資格取得と関連した科目
K	卒業研究/研究指導－主要科目、資格取得とは関連しない
L	卒業研究/研究指導－主要科目以外の科目
M	その他－主要科目で資格取得と関連した科目
N	その他－主要科目、資格取得とは関連しない
S	その他－主要科目以外の科目

2-4 授業計画（シラバス）

教育課程を構成する個々の授業科目には、到達目標が設定されます。この到達目標はディプロマ・ポリシーに掲げる学修目標をさらに具体化する観点で作成されたものです。

教員は、授業の到達目標に学生を導くため、各回の授業を計画します。また、この授業計画を記した文書（シラバス）をあらかじめ明示したうえで授業を行います。

授業計画（シラバス）には、授業の概要、その授業の到達目標、ディプロマ・ポリシーに定められた学修目標と授業科目の関係、授業の進め方、成績評価方法や評価基準、準備学修（事前学修と事後学修）の内容、教員のオフィスアワーなど授業の全体像が記されています。

シラバスは、個々の授業科目について学生と教員との共通理解を図るうえで極めて重要なものであり、授業の行程表として機能するとともに、成績評価の基点となるものです。

2-4-1 シラバスの活用

- 履修登録を行うにあたっては、科目を選択する際の基準としてシラバスを活用してください。
- 科目を履修するにあたっては、常にシラバスを確認するように心がけてください。授業の目的、到達目標、その日の授業内容等を繰り返し確認することにより学修効果を高めることができます。

2-4-2 シラバスの閲覧方法

- 各授業科目のシラバスは年間を通してUNIPAから閲覧できます。UNIPAで公開されているシラバス情報に修正が生じた場合は、掲示等で周知するので確認してください。
- シラバスの閲覧方法については「F.資料集」の「3-1. 「UNIVERSAL PASSPORT」操作説明書」を参照してください。

3 授業のしくみ

3-1 単位

3-1-1 単位と単位制

(1) 単位

- 単位とは、学修の量を示す基準のことであり、大学における授業では、各科目の授業時間と学修量を「単位」という数値で表します。
- 授業科目の単位数は、大学設置基準により、1 単位あたりの学修時間が授業時間および自主学修（予習・復習など）時間を合わせて 45 時間（試験時間は除く）と定められています。
- 各授業科目の単位数は、大学で行う授業とその準備のために学生が行う自主学修時間等を含めて計算されており、授業科目の性質や授業の方法によって、大学で行う授業とその準備のために学生が行う自主学修時間の割合は異なります。

(2) 単位制

単位制とは、所定の授業科目を履修することにより、その授業科目の単位を修得し、在学期間（小田原保健医療学部においては 4 年以上 8 年以内）のうちに、卒業に必要な単位数を修得する制度のことをいいます。

3-1-2 単位と学修時間数

(1) 授業の方法と単位修得に必要な授業時間

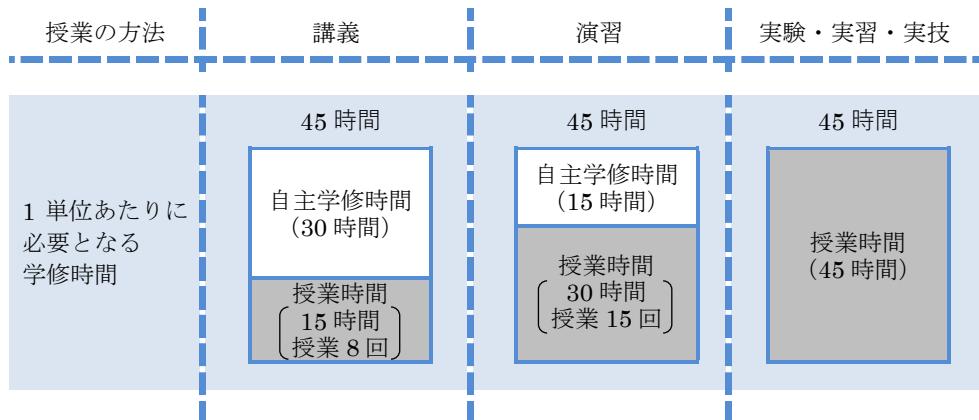
本学では原則として次のように授業の方法を区分し、1 単位に必要な授業時間を定めています。

授業の方法	単位修得に必要な授業時間 () は教育上必要があるとき
講義	15 時間 (30 時間) / 1 単位
演習	30 時間 (15 時間) / 1 単位
実験・実習・実技等	45 時間 (30 時間) / 1 単位

(2) 授業の方法と単位修得に必要な学修時間数

単位修得に必要となる授業時間と自主学修時間は、授業の方法に応じて次のとおりとなります。

<1 単位の科目を修得するために必要な学修時間>



※ 「講義」と「演習」の授業時間は 90 分を 2 時間分とみなして計算するため、「講義」は 8 回の授業、「演習」は 15 回の授業で 1 単位となります。

※ 授業時間と学修時間は、同じ授業の方法でも科目の内容に応じて変動する場合があります。例として、外国語科目は「講義」科目ですが、30 時間の授業時間（15 回の授業）と 15 時間の自主学修時間をもって 1 単位とします。

CHECK

たとえば、講義で 2 単位科目の場合は、授業時間 30 時間（15 回の授業）の他に自主学修時間 60 時間が必要です。

3-2 授業期間

- 1年を前期・後期の2学期に分け、授業は定められた期間内で行われます。ただし、授業において指定のあった科目および実習については、夏期休暇等の長期休暇期間中や別に定められた期間を利用して開講することがあります。詳細は学科のオリエンテーションなどで確認してください。
- 授業日数を確保するため、土曜日や祝日に授業を行う場合やカレンダー上の曜日とは異なる曜日の授業を行う場合があります。授業期間や履修科目の授業日程は、授業週間および定期試験期間一覧（学年暦）、時間割表、各科目のシラバス（授業計画）を確認してください。
- 学年暦はGoogle Classroom内の「学務課」より確認できます。

3-3 授業時間

本学の授業は 90 分を 1 時限として、1 日 5 時限で構成されています。なお、科目によっては 6 時限に開講される場合もあります。

時限	授業時間帯	時間
1 時限	9 : 00 ~ 10 : 30	[90 分]
2 時限	10 : 40 ~ 12 : 10	[90 分]
昼 休 み		
3 時限	13 : 00 ~ 14 : 30	[90 分]
4 時限	14 : 40 ~ 16 : 10	[90 分]
5 時限	16 : 20 ~ 17 : 50	[90 分]
6 時限	18 : 00 ~ 19 : 30	[90 分]

* 授業計画等の都合（休講等）により、授業時間帯を変更して授業を行う場合があります。その場合は掲示や UNIVERSAL PASSPORT で連絡します。

休憩時間は、各時限と時限の間の 10 分間、昼休みは 12 : 10~13 : 00 までの 50 分間です。休憩時間は、速やかに休憩を済ませ、次の時限の開始時間に間に合うように校舎・教室間の移動を行ってください。

3-4 時間割と教室

- 当該年度の各科目の授業時間や使用教室は「時間割表」で確認してください。時間割表はGoogle Classroom内の「学務課」でお知らせします。
- 大学には、授業の方法に合わせて大中小の教室やゼミ室、実験・実習室、演習室などの学修環境が用意されており、科目によって指定された教室で授業が行われます。各科目の開講時間および校舎・教室を間違えないように十分注意してください。
- 開講時間や教室など、時間割表に変更が生じた場合は、別途掲示やUNIPAで連絡します。
＊履修者数や教室設備の都合などにより、開講日時や教室が、年度当初の時間割表やシラバスに記載のものから変更されることがあります。
＊変更は、学期を通して変更する場合と1回のみ（指定日限り）変更する場合があります。特に各期の授業開始直後は教室を変更することがありますので、掲示をよく確認するようしてください。

3-5 授業の方法と種類

3-5-1 授業の方法

授業は、講義、演習、実験、実習（学内実習・臨床実習）、実技など、さまざまな方法で行われます。

授業の方法	説明
講義	教員が学生に対し、学問の方法や成果、また、研究対象などについて、その内容・性質などを解説する授業の形式です。座学ともいいます。
演習	教員の指導のもと、学生が研究・発表・討議を行うことを主眼とした、主に少人数グループに分かれて行われる授業の形式です。
実験・実習・実技	講義や演習形式で学んだ理論や知識、技術を活用し、実践的に学修する授業の形式です。医療福祉系大学では病院や福祉施設に赴いて実践的な臨床を学修する「臨床実習」が行われます。

3-5-2 メディアを利用した授業 (ICT 授業)

本学の授業には、教室で教員と対面して受講する通常の授業（対面授業）に加え、ソフトウェア授業や e ラーニング授業などがあります。

(1) ソフトウェア授業（本学での呼称：オンライン授業、ICT 授業）

- 教員が講義しているキャンパスや教室とは別のキャンパスや教室で受講する授業です。自宅などで受講する場合もあります。
- 同時双方向ソフトウェア「Microsoft Teams」などを利用して講義をリアルタイムに配信し、学生は教員の映像や音声を視聴できるだけでなく、教員への質問やディスカッションを行うなど双方向のコミュニケーションが可能です。
- 複数のキャンパスで同時に授業を実施することが可能です。
- 対面授業とオンライン授業を組み合わせて実施する、ハイブリッド型授業を行うことがあります。

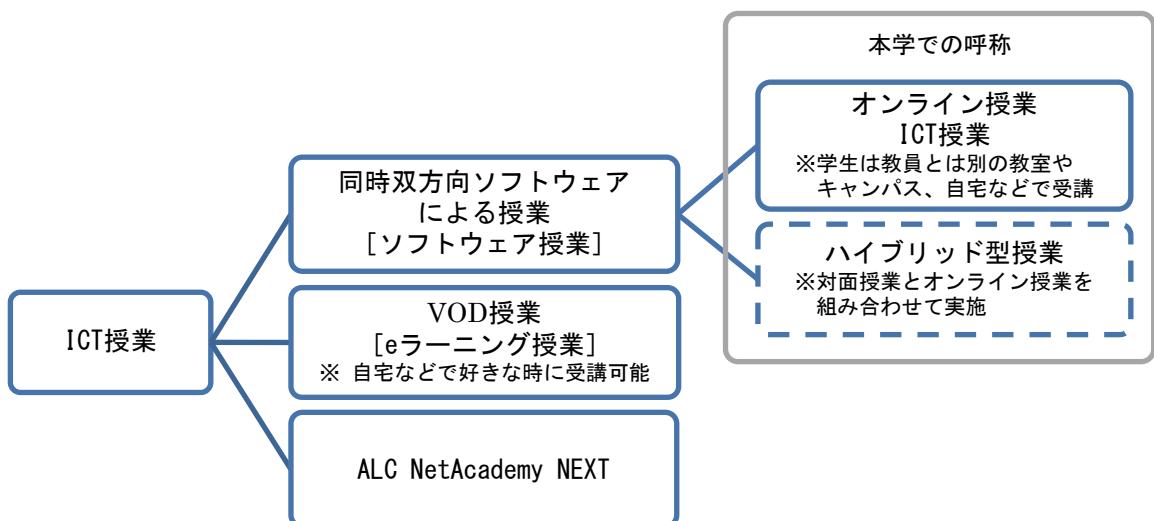
(2) e ラーニング授業（本学での呼称：VOD 授業）

- あらかじめ収録した授業映像を、Google Classroom により受講する授業です。インターネットに接続されたパソコンさえあれば、自宅などで好きな時に受講し、繰り返し学修できるため、利便性が高い授業です。

(3) ALC NetAcademy NEXT

- 英語の e-learning 教材「ALC NetAcademy NEXT」で TOEIC (R) L&R テスト対策の学習や英語力をアップさせるためのトレーニングができます。
- 本学の在学生は無料で利用ができます。

URL : <https://nanext.alcnext.jp/anetn/Student/stlogin/index/iuhw>



3-5-3 VOD 授業

- VOD授業の履修期間は講義科目同様（前期・後期）です。ただし、視聴期間が定められています。視聴期間を学内掲示板で確認し、各自計画的に学修を進め、期間内にすべての回の視聴を完了してください。
- VODを主とした科目であっても、VODの視聴に加えて、視聴期間中に対面授業を実施します。対面授業の日程等は学内掲示板で連絡しますので、必ず出席してください。
- 各回視聴後、必ず確認問題に回答してください。VOD授業の成績評価にあたっては、各回の講義動画視聴終了後、設問に対する回答を完了していることが必要となります。

CHECK

VOD授業の視聴方法、設問回答方法、問い合わせ方法や各科目の詳細は、学内掲示板やUNIPAに掲載します。

3-6 出席・欠席・遅刻

- 所定の時間割に従って授業には毎時間必ず出席しなければなりません。
- 遅刻については、科目担当教員の判断により、遅刻者の出席を認めないまたは遅刻者を入室させない場合があります。やむを得ない事情により遅刻する場合は、事前または事後速やかに科目担当教員に相談してください。
- 病気等やむを得ない事情以外の欠席・遅刻について生じた不利益は補償しません。また、出席回数が3分の2に満たない科目は定期試験の受験資格やそれに代わるレポート提出等の提出資格を得られず、単位修得もできません。
※科目によっては、試験の受験資格に必要とされる出席時間数がこの基準より引き上げられることがあります。科目担当教員の指示に従ってください。
- ※原則として大学では、学生個人の出席状況の開示は行いません。出席状況は各自で管理してください。
- 病気等やむを得ない事情により授業を欠席する場合は、学科または教務係に欠席届を提出してください（提出先は学科の指示に従うこと）。ただし、欠席届はあくまで欠席理由を明らかにするものであり、必ずしも公欠が認められるものではありません。詳細は「B.大学生活を送るにあたって」の「4-5.授業の欠席に関する届出」を参照してください。
- 欠席届は欠席した日から7日以内（欠席した日も含め8日以内）に提出してください。理由なく提出が遅れると、欠席届が受理されない場合があります。別途、学科や授業担当教員が提出方法や提出期限を設けている場合はその指示に従ってください。

- 学外における実習の欠席は、所属学科の取り決めに従い欠席連絡を行ってください。
- 定期試験（成績評価に係る試験）の欠席については追試験が認められる場合があります。この場合の手続きについては「D. 履修ガイド」の「5-6. 追試験」を参照してください。
- 不測の事態で授業を欠席する時は、速やかに学科の担当教員および大学事務局に連絡してください。

3-7 休講と補講

- やむを得ない理由により、授業が行われないことを「休講」といいます。休講になった場合、原則その回の授業を別日に実施する「補講」が行われます。
- 休講や補講は掲示やUNIPAで連絡します。

3-8 自然災害や交通機関等の影響による休講措置

3-8-1 自然災害等による休講の決定

自然災害などの不測の事態が発生した場合、やむを得ず休講措置をとることがあります。

自然災害等が発生し下記のいずれかに該当する場合、学長の判断により当該授業は休講とします。

(1) 次のいずれかに該当する場合授業は休講とします。

- ① 暴風警報が神奈川県全域若しくは西湘地域に発令された場合。
- ② 地震・台風等により JR 東海道線（東京↔熱海間）及び小田急小田原線（相模大野↔小田原間）のいずれかが、全面または部分を問わず運行停止となった場合。但し、事故等によりダイヤが乱れ運行本数を減らしている場合、バス等により振替輸送が実施されている場合は運行しているものとみなします。また、暴風警報以外の警報（大雨警報等）は、休講の対象となりません。

なお、実習のときは上記によらず担当教員の指示を仰いでください。

(2) 暴風警報が解除された場合及びJR 東海道線（東京↔熱海間）及び小田急小田原線（相模大野↔小田原間）の運行が再開された場合は、次の基準により授業を行います。

- ① 午前 7 時の時点で、暴風警報が解除された場合及び運行が再開されている場合は、通常通り授業を行います。
- ② 午前 8 時 30 分の時点で、暴風警報が解除された場合及び運行が再開されている場合は、2 時限目から授業を行います。
- ③ 午前 11 時の時点で、暴風警報が解除された場合及び運行が再開されている場合は、3 時限目から授業を行います。
- ④ 午前 11 時の時点で、暴風警報が解除されていないか、または運行が再開されていない場合は、全ての授業を休講とします。

- ⑤ 例えば1限については、朝7時に気象庁、JR、小田急のホームページを確認してください。大学からもできる限り迅速に情報を配信するようにしますが、ご自身でも判断できますので、ご協力をお願いします。

(3) 気象情報、災害等の状況によっては前日の時点で休講の判断を行うことがあります。

3-8-2 休講措置の解除

休講措置を講じた場合、その後、気象警報が解除されるまたは交通機関の運行が再開され、授業を実施することが適切であると学長が判断した場合、休講措置を解除し、学長が適切と判断する时限から授業を実施します。

3-8-3 オンライン授業、ICT授業の扱い

いずれかのキャンパスが休講措置を講じた場合の遠隔授業の取り扱いについては以下のとおりとします。

- 遠隔授業の送信側キャンパス（教員がいるキャンパス）が休講措置を講じた場合、当該授業は、全キャンパスにおいて休講とする。
- 遠隔授業の受信側キャンパス（教員がないキャンパス）が休講措置を講じた場合、当該授業は、休講措置をとったキャンパスのみ休講とし、他のキャンパスでは通常通り授業を実施する。

3-8-4 休講措置に関する情報の周知

- 休講措置を決定した場合または休講措置を解除した場合、教務係から、UNIPAのメール配信により速やかに周知します。
- 原則として、電話での問い合わせには応じられません。
- 適宜、キャンパス内の掲示板および入口等への掲示、校内放送（授業中であっても緊急連絡）により周知します。

3-8-5 休講措置を講じた授業科目等の扱い

休講措置を講じた授業科目については、各授業担当教員の判断により後日補講等を行います。なお、休講措置を講じない授業科目であっても自然災害の影響や公共交通機関の運休等のやむを得ない事情により授業を欠席した者については各授業担当教員の判断により受講上の不利益にならないよう配慮します。

3-8-6 学外における実習等の扱い

学外実習における実習等の中止については、当該実習の担当教員が当該学科長と協議のうえ、学科長が判断できるものとします。なお、実習先との調整と連絡、学生への連絡は当該学科より行います。また、実習先より中止の連絡があった際は、当該学科へ報告し指示に従ってください。

3-8-7 その他

その他、不測の事態が発生した場合は適宜対応を決定し、UNIPA 等を通じて連絡します。

CHECK

緊急時の連絡をスマートフォンなどの携帯端末で受け取れるよう、UNIPA のメールの転送設定をしましょう！転送されない場合、早めに相談。

3-9 授業を受講するうえでの留意事項

3-9-1 学生の本分に反する行為の禁止

学修上、次のような行為は学生の本分に反する行為として処分されることがあります。大学生としての自覚を持ち、十分注意してください。

- 授業内試験や小テスト等における不正行為
 - レポート課題等を作成する際に他者の成果を盗用するといった不正行為
 - 授業において、代返（授業を欠席したにもかかわらず、他の学生に出席確認を依頼することまたは引き受けること）等出席確認の際の不正行為
 - 受講時のマナーに反する行為
 - ア. 授業中の私語
 - イ. 授業中、担当教員の許可なく入退室を行う行為
 - ウ. 授業中、携帯電話やスマートフォン、タブレット端末、ノートパソコン等の電子機器を授業目的以外の用途で使用する行為
- ※担当教員の指示や許可が無い場合は、これらの機器を使用することは禁止です。
- エ. 授業中、担当教員の許可なく飲食をする行為

3-9-2 授業の録音、撮影、Web掲載等の禁止

- 科目担当責任者の許可なく、授業の録画や録音、講義資料の撮影を行うことを禁止します。やむを得ない事情により、授業の録画や録音、講義資料の撮影を必要とする場合は教務係まで申し出てください。
- 授業の映像・音声、講義資料等をWebやSNSなど、インターネット上で閲覧できるようにすることを禁止します。

3-9-3 受講時の合理的配慮

本学では障害等のある学生に対し、授業等における情報保障や施設のバリアフリー化を推進しています。障害等により合理的配慮を必要とする学生は、学生係に相談してください。

3-9-4 学生による授業評価アンケート

(1) 授業評価アンケートの目的

授業評価アンケートは授業の質の向上、延いては大学全体の教育の質の向上を図ることを目的として実施します。なお、目的達成のためには教員各人の教育力の向上も必須であることから、授業評価アンケートの集計結果は各科目担当教員へのフィードバックはもちろんのこと、各科目を所管する学科長にも情報を提供することとし、授業の質的向上、改善を大学全体として図ります。

(2) 対象科目

開講科目全科目（通年、前期・後期、必修・選択のすべて）

(3) 集計結果の公開

授業評価アンケートの集計結果は学期ごとに Google Classroom 内にて学生に公開します。

(4) その他

授業評価アンケートは、授業の質的向上、改善の目的にのみ利用するものであり、科目の成績評価には一切影響しません。また、学生個人が特定され不利になるようなこともありませんので、自身の責任で率直な意見を表明してください。

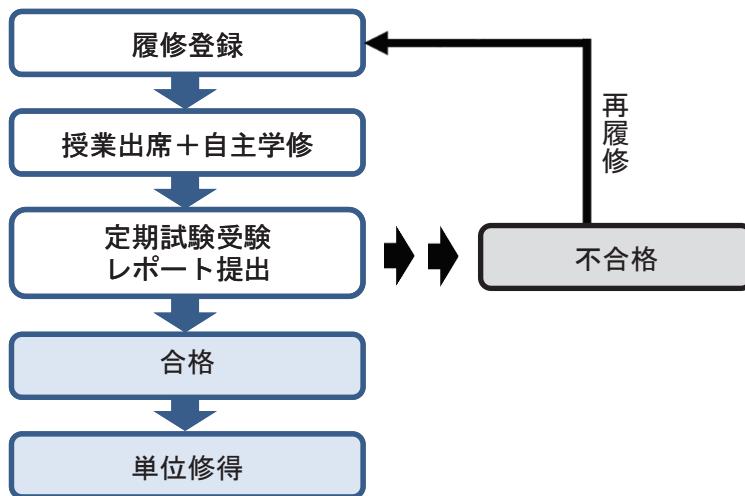
なお、アンケートの自由記載欄に、アンケートの趣旨から逸脱した誹謗中傷および人格や個性（容姿、国籍等）に対する差別的記述は絶対にしてはいけません。真摯に誠意ある記述をするよう心掛けてください。

4 科目履修

4-1 履修方法

4-1-1 履修登録から単位修得までの流れ

大学では、自らの責任において履修計画を立て、履修を希望するすべての科目を所定の履修登録期間に履修登録する必要があります。



4-1-2 履修登録

- 履修を希望するすべての科目は、所定の履修登録期間に履修登録しなければなりません。履修登録は必ず学生自身が責任を持って各自で行ってください。病気等により所定の期間内に履修登録が困難な場合には、必ず事前に教務係まで連絡し指示を受けてください。
- 履修登録期間に登録しなかった科目は、授業に出席し、試験を受けても単位を修得することはできません。
- 履修登録期間には、履修登録に関する注意事項が掲示されますので、必ずよく確認してください。
- 履修登録はUNIPAにて行います。履修登録の方法は「F.資料集」の「3-1.「UNIVERSAL PASSPORT」操作説明書」を確認してください。
- UNIPAで履修登録をした際、必ずエラーが出ていないかを確認してください。万が一エラーが出ている場合は、指示内容を確認し、エラーを解消してください。
- 履修登録完了後は必ず学生時間割表を印刷し、保管してください。履修登録の証明になります。スクリーンショットや写真は証明として認めません。履修登録期間中は、登録の変更が可能ですが、変更をした際はその都度学生時間割表を印刷し、最新版を手元に保管してください。

4-1-3 履修登録期間

履修登録は、登録・取消できる期間が定められています。期間は年度によって異なります。日程は年度当初に掲示しますので、履修登録を怠ることがないよう十分注意してください。

<履修登録期間概要>

時期	登録期間区分	登録・取消内容	手續方法
4月初旬～ 4月中旬	年間履修登録期間	当該年度に履修するすべての科目を登録する期間。 1年間の履修計画を立て、登録漏れのないようにすること。	UNIPA
5月末～ 6月中旬	前期後半選択科目 履修登録取消期間	4月に履修登録した科目のうち、前期後半から開講する選択科目についてのみ、登録を取り消すことができる期間。	教務係窓口
9月下旬～ 10月初旬	後期選択科目 履修登録変更期間	4月に履修登録した科目のうち、後期に開講する選択科目の登録を取り消したり、新たに追加したりすることができる期間。	UNIPA
11月中旬～ 12月初旬	後期後半選択科目 履修登録取消期間	履修登録した科目のうち、後期後半から開講する選択科目についてのみ、登録を取り消すことができる期間。	教務係窓口

*履修登録期間は授業期間です。履修登録期間の授業は授業回数に含まれます。選択科目は授業に出席した後で履修を継続するかどうかを決定することができます。一度履修登録した科目の履修を削除する場合は、必ず履修登録期間内に手続きを完了してください。

*履修登録を変更した場合は、必ず UNIPA から学生時間割表を印刷し、各自保管してください。

4-1-4 進級および卒業に必要な単位

学部・学科ごとに、進級や卒業に必要な単位数や修得する必要がある必修科目、選択科目、進級条件や卒業要件が定められています。履修登録をするにあたって、必ず、「D.履修ガイド」の「7.進級と卒業」や「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を確認してください。

4-1-5 科目等履修条件

授業科目によっては履修条件があり、条件によっては履修できない場合もあります。履修登録を行う際には十分注意してください。

- 科目には、履修学年の指定があります（配当年次）。指定以外の学年では原則履修できません。
- 同じ名称の授業科目でも、学科により履修可能な曜日時限が異なる場合があります。時間割表やシラバスで対象学科を確認のうえ、履修してください。
- 科目を履修するうえで条件が設定されていることがあります。また、学修の順序性を保つために、各学科において指定した科目の単位を修得しなければ履修できない科目があります。必修科目については「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を、総合教育科目についてはシラバスを確認してください。
- 外国語系科目の中で、日本語科目は留学生のための履修科目（留学生以外の履修は不可）です。

4-1-6 科目の履修者数の制限／クラス分け

- 科目によっては、履修登録できる人数を制限することがあります。制限人数を超えた際は、抽選等の方法によって履修者を決定します。抽選等により履修者を決定する場合、履修登録期間の途中でも履修を締め切ることがあります。詳細は掲示しますので、確認してください。
- 同じ学科・学年であってもクラス分けなどが行われ、履修する曜日や時限が異なる場合があります（例：英語科目）。掲示で自分がどのクラスになるかを確認し、履修登録に漏れのないよう十分注意してください。

4-1-7 年間履修登録単位数の上限（キャップ制）

(1) キャップ制

「キャップ制」とは、学修の質および学修時間の確保のため、年間履修登録単位数の上限を定める制度のことをいいます。

本学では、単位制度を実質化（1単位あたり必要な45時間の学修時間を確保）し、学修すべき授業科目を精選することで、十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身に付け、各学期にわたって適切に授業科目を履修することにつなげるためキャップ制を導入しています。

(2) キャップ制による単位数の制限

原則として年間履修登録単位数は**50単位未満**とします。

ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生（直前の学期のGPA値※が3.00以上の場合）については、前期の年間履修登録期間または後期選択科目履修登録変更期間に教務係に履修単位数上限変更願を提出し、大学が認めた場合、履修単位数の上限を**54単位**とすることができます。

※GPAについては「D.履修ガイド」の「6.成績」を参照してください。

(3) キャップ制の対象となる単位

キャップ制の対象となる単位は、「卒業要件単位に含まれるすべての単位」とします。

ただし、以下の単位については、キャップ制の上限に含まないものとします。

- 海外保健福祉事情にかかわる授業科目の単位
- 本学が認定した単位（他の大学・短期大学等で修得した授業科目の単位認定や、TOEIC・英検による単位認定、外国人のための日本語テストによる日本語科目的単位認定、放送大学との単位互換協定による単位認定など）
- 再履修科目の単位
- 卒業要件に含まない科目的単位
- 養護教諭一種免許状取得における、教育の基礎的理解に関する科目等、および教育法規（法学）の単位（小田原保健医療学部看護学科教職課程（養護教諭一種免許状課程）履修者のみ）。

4-1-8 メディアを利用して行う授業科目の修得単位数の上限

- 同時双方向型授業やVOD授業など、メディアを利用して行う授業の回数が、全開講回数の半数以上となる授業科目を「メディアを利用して行う授業科目」といいます。
- 「メディアを利用して行う授業科目」により修得する単位数は、60単位を超えない範囲で履修するものとします。

4-1-9 再履修

- 単位を修得できなかった科目（不合格の科目）は次学期もしくは次年度、再履修することができます。
- 再履修しようとする場合は、改めて履修登録のうえ、授業に出席し、試験を受けなければなりません。
- 現学年の必修科目と再履修しなくてはならない科目が同時限開講になる場合もあり、次年度もしくは次学期に必ず再履修できるとは限りません。特に必修科目は該当年次で単位を修得するように努めてください。

4-1-10 他学科の授業科目の履修

- 他学科の授業科目を自学科の必修科目や学科から指定された科目と重複しない時間であれば履修することができます。
- 他学科の授業科目を履修しようとする場合は、「他学科科目履修願」を教務係に提出してください。

4-1-11 授業の聴講

履修登録した科目以外の科目であっても、聴講するに正当な理由として認められ、あらかじめ担当教員の許可を得て聴講することができます。ただし、成績の評価を受けることはできず、単位も修得できません。

CHECK

UNIPAで履修登録をする際に、エラーを解消せずにいると、1年間の履修がすべて登録されず単位が修得できないこともあります。必ず確認してください。

4-1-12 履修計画および履修登録時の留意事項

- 「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／履修科目一覧」をよく確認し、進級や卒業に必要な科目や単位数を確認してください。
- 進級と卒業に必要な単位および学修時間を考慮したうえで、当年度の時間割表を確認し、一年間で履修登録する授業科目について計画を立ててください。
- 必修科目は必ず修得しなければならない単位です。指定された年次（配当年次）に、必ず履修してください。
- 学科で履修指導されている選択科目がある場合、配当年次に履修してください。
- 上級年次に開講されている科目は原則として履修できません。
- 必修科目および学科指定の選択科目が入っていない時間帯に、修得したい選択科目を履修してください。選択科目は当該年度では履修登録ができても、次年度以降履修できるとは限りません。十分検討したうえで履修計画を立て、単位を修得するよう努めてください。
- 科目によっては、「履修のための条件」や「クラス」が定められていることがあります。シラバスや掲示での指示事項、時間割表を確認してください。また授業中に担当教員から「履修のための条件」について指示される場合は、その内容に従ってください。
- 登録できる上限単位数が決められています。無理のない範囲で履修してください。
- 科目によっては、履修者数を制限することがあります。
- 履修希望者が所定の人数に満たない選択科目は開講しない場合があります。
- 国家試験等の受験資格を得るために必要な科目は、選択科目であっても必ず履修してください。必要な科目については学科のオリエンテーションや「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照してください。
- 総合教育科目を選択する場合、6つの系統別に選択すべき単位数が定められている場合があります。「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を参照し選択科目の系統が偏らないように気を付けてください。履修登録科目に迷う場合は、学科の担当教員に相談してください。
- 外国語系科目は、学科により、英語の必修科目と英語以外の外国語系の選択科目から所定の単位数を修得することが卒業の条件となる場合があります。所属する学科の外国語系科目の履修条件を確認してください。
- 外国語系科目の中で、日本語科目は留学生のための履修科目（留学生以外の履修は不可）です。
- UNIPA で履修登録をした際、必ずエラーが出ていないかを確認してください。万が一エラーが出ている場合は、指示内容を確認し、エラーを解消してください。
- 履修登録完了後は必ず学生時間割表を印刷し、保管してください。履修登録の証明になります。スクリーンショットや写真は証明として認めません。履修登録期間中は、登録の変更が可能ですが、変更をした際はその都度学生時間割表を印刷し、最新版を手元に保管してください。

4-2 単位認定制度

4-2-1 本学における単位認定制度の概要

本学に入学前もしくは入学後国籍中に、他大学等で修得した授業科目や大学以外の教育施設における学修等は、一定の基準に基づき、本学において修得した卒業に必要な単位として認定されます。

本学において行われている単位認定制度の種類は以下のとおりです。

- (1) 入学前の既修得単位等の認定
- (2) 「TOEIC または英検」による英語科目の単位認定
- (3) 「外国人のための日本語テスト」による日本語科目の単位認定
- (4) 「放送大学で修得した単位互換協定科目」の単位認定

4-2-2 単位認定で申請対象となる科目と認定単位数の上限

- 本学の科目すべてが申請対象となります。ただし、資格試験受験のための必須科目は、認定校での履修のみを条件としており、他大学での修得単位では認められない場合があります。
- 単位認定の種類により、認定科目、認定基準、認定の上限単位数が異なります。
- 入学前に大学、短期大学等、その他文部科学省で定める学修（大学以外の教育施設等における学修）で修得した単位は、60単位を超えない範囲で認定されます。
- 入学後に他大学、短期大学等、その他文部科学省で定める学修（大学以外の教育施設等における学修）で修得した単位は、30単位を超えない範囲で認定されます。
- 入学前に修得した単位および入学後に修得した単位を合わせて60単位を超えない範囲で認定するものとします。

4-2-3 単位認定制度に関する留意事項

- 単位認定が許可された場合、成績評価は「認定」となります（単位認定科目の成績はGPA※算出の対象には含まれません）。
※GPAについては「D.履修ガイド」の「6.成績」を参照してください。
- 履修登録した科目の認定申請は可能ですが、申請結果より先に本学での成績が確定した場合、不可の場合を除き、本学での成績が優先されます。
- 履修登録科目を認定申請した場合、認定許可を確認するまでの間は必ず申請した授業に出席してください。
- 認定申請の結果、不許可となった科目の再申請はできません。
- 単位認定の審査結果は掲示もしくは個別に本人へ通達します。許可、不許可の理由は回答しません。

4-2-4 単位認定制度の詳細

(1) 入学前の既修得単位等の認定

① 制度概要

本学に入学する前に大学、短期大学、高等専門学校又は大学設置基準第29条第1項の規定による専修学校において履修した授業科目について修得した単位（本学科目等履修制度により修得した単位を含む）を、60単位を超えない範囲で、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、卒業要件単位に算入することができます。

② 申請手続き

- 既修得単位の認定を受けようとする場合は、所定の提出期間内に次の書類を教務係窓口に提出し、審査を受けてください。申請書の記載漏れや申請書類の不備は申請無効となります。
 - ア. 「既修得単位認定申請書」（本学所定様式・教務係窓口で配付）
 - イ. 「成績証明書」（大学、短大等の発行で巻封されたもの）
- 申請期間は掲示で周知します。所定の提出期限を厳守してください。期限後の提出は一切認めません。
注) 申請期間は、前期の年間履修登録期間のみ年1回
- 審査結果は掲示もしくは個別に本人へ通達します。許可、不許可の理由は回答しません。

③ 注意事項

- 本学の科目すべてが申請対象となります。
- 単位認定申請は原則として申請科目1科目に対し認定科目1科目で申請してください。既修得単位認定申請書は1科目につき1枚使用し必要項目をすべて記入してください。
- 他大学等で修得した同一の既修得単位科目を複数の認定希望科目に申請した場合、すべての申請を無効とします。また、認定申請の結果、不許可となった科目の再申請はできません。
- 既修得単位認定は、大学や短期大学等で単位修得した科目の単位数が本学で認定申請しようとする科目（本学の科目で認定申請予定）の単位数以上であり、かつ授業内容が本学の内容と一致し、申請者がその内容について充分に理解しているとみなされたものに限り認められます。
- 申請にあたり、科目内容の理解度は審査の際の大きな判断材料となります。よって、修得した科目の授業概要や内容を自身の表現で申請書に記載する必要があります。記入漏れがあるものや、明らかに要項等を書き写したもの、項目のみを羅列したものなどは認められませんので注意してください。
- 他の大学等で修得した英語科目の単位は単位認定申請をすることができません（本学に過去在籍していた者で、在学中に本学の英語科目を履修し単位を修得していた場合は、再入学後に英語の単位認定申請が認められます）。

(2) 「TOEIC または英検」による英語科目的単位認定

① 制度概要

- TOEIC または英検を受験するための学修は、大学設置基準第 29 条「大学以外の教育施設等における学修（その他文部科学大臣が別に定める学修）」として、獲得した TOEIC の得点または英検の等級により、指定した英語科目的単位を本学における授業科目的履修により修得したものとみなします。
- TOEIC または英検による英語科目的単位認定は在学期間中、合計 2 回、最大 3 単位までの単位認定を申請することが可能です。

② 単位認定基準

- 英語科目的単位認定申請は、単位認定を申請する日以前の 1 年間に取得した TOEIC の得点または英検の等級いずれかに基づき、各学期 1 件のみ申請することが可能です。

【TOEIC の得点による単位認定基準】

マークシート方式による TOEIC® Listening & Reading Test のスコアを単位認定の対象とします（公開テスト、IP テストいずれも可。）。

▼1回目の申請

基準	単位数
550 点～645 点	1 単位
650 点以上	2 単位

▼2回目の申請

1回目の申請基準・スコアよりも高得点である場合に限り、2回目の申請を行うことが可能です。2回目の申請による認定単位数は以下のとおりです。

1回目申請時の基準	⇒	2回目の申請基準	単位数
550 点～645 点の場合	⇒	650 点以上	2 単位
650 点以上の場合	⇒	英検 1 級	2 単位
	⇒	650 点以上	1 単位

【英検の等級による単位認定基準】

実用英語技能検定（英検）準 1 級以上を単位認定の対象とします。

▼1回目の申請

基準	単位数
英検準 1 級	1 単位
英検 1 級	2 単位

▼2回目の申請

1回目の申請基準・スコアよりも上位階級を取得した場合に限り、2回目の申請を行うことが可能です。2回目の申請による認定単位数は以下のとおりです。

1回目申請時の基準	⇒	2回目の申請基準	単位数
英検準1級	⇒	英検1級	2単位

③ 単位認定対象科目

TOEIC または英検による単位認定の対象となる英語科目は次のとおりです。

単位認定を申請する科目は、下記対象科目の中から申請者自身が選択してください。

ただし、申請できる科目は、申請時の学年で履修できる科目のみとなります。

1年次後期より申請することができます。

学部	単位認定対象科目
小田原保健医療学部	英語 A-2(講読応用) 英語 B-2(聴解・発話応用) 英語 A-3(講読中級 1) 英語 A-4(講読中級 2)

④ 申請手続き

- 英語科目的単位認定を受けようとする場合は、所定の提出期間内に次の書類を教務係窓口に提出し、審査を受けてください。申請書の記載漏れや申請書類の不備は申請無効となります。
 - ア. 英語科目単位認定申請書（教務係窓口で配布）
 - イ. TOEIC L&R スコアレポートまたは英検合格証明書（コピー不可、必ず原本提出すること。後日返却）
 - 申請期間は掲示で周知します。所定の提出期限を厳守してください。期限後の提出は一切認めません。
- 注) 申請期間は、前期の年間履修登録期間および後期の履修登録変更期間の年 2 回
- 審査結果は掲示もしくは個別に本人へ通達します。

⑤ 注意事項

- 申請可能な回数は各学期 1 件のみ、計 2 回までです。
- 認定可能な単位数は、1回の申請につき 1~2 単位（合計 3 単位まで）となります。
- 申請日から 1 年以内に取得した得点・等級でなければなりません。
- 1回目の申請に利用した試験結果を 2回目の申請にも利用することはできません。

(3) 「外国人のための日本語能力テスト」による日本語科目的単位認定

① 制度概要

- 外国人のための日本語能力テストを受験するための学修は、大学設置基準第 29 条「大学以外の教育施設等における学修（その他文部科学大臣が別に定める学修）」として、獲得した得点により、指定した日本語科目的単位を本学における授業科目的履修により修得したものとみなします。
- 外国人のための日本語能力テストは、次の試験が対象となります。
「日本語能力試験（JLPT）」（注 1）、「BJT ビジネス日本語能力テスト」（注 2）、「日本留学試験（EJU）」（注 3）、「J.TEST」（注 4）、「日本語 NAT-TEST」（注 5）、
- 外国人のための日本語能力テストによる日本語科目的単位認定は「日本語能力試験」、「BJT ビジネス日本語能力テスト」「日本留学試験＜記述＞」「日本留学試験＜日本語＞」「J.TEST」「日本語 NAT-TEST」それぞれ 1 回のみとし、最大 3 単位までの単位認定を申請することができます。

② 単位認定基準および単位認定対象科目

- 外国人のための日本語能力テストによる認定単位数は以下のとおりです。
- 単位認定を申請する日以前の 1 年間に取得した得点を認定対象とします。

日本語試験	スコア	単位数	対象科目
日本語能力試験 N1	128 点以上	1 単位	日本語 III-B (文法・語彙)
BJT ビジネス 日本語能力テスト	J1+ (600 点以上)	2 単位	日本語 III-A (作文)
			日本語 III-C (発表討論)
日本留学試験＜記述＞	45 点以上	1 単位	日本語 III-A (作文)
日本留学試験＜日本語＞	300 点以上	1 単位	日本語 III-B (文法・語彙)
J.TEST	< B 級 > 800 点以上	1 単位	日本語 III-B (文法・語彙)
日本語 NAT-TEST 1 級	130 点以上	1 単位	日本語 III-B (文法・語彙)

(注 1) 日本語能力試験（独立行政法人国際交流基金、公益財団法人日本国際教育支援協会 主催）

(注 2) BJT ビジネス日本語能力テスト（公益財団法人日本漢字能力検定協会 主催）

(注 3) 日本留学試験（独立行政法人日本学生支援機構 主催）

(注 4) J.TEST（株式会社語文研究社 日本語検定協会・J.TEST 日本事務局 主催）

(注 5) 日本語 NAT-TEST（株式会社専門教育出版 日本語 NAT-TEST 運営委員会 主催）

③ 申請手続き

- 日本語科目的単位の認定を受けようとする場合は、所定の提出期間内に次の書類を教務係窓口に提出し、審査を受けてください。申請書の記載漏れや申請書類の不備は申請無効となります。
 - ア. 日本語科目単位認定申請書（教務係窓口で配布）
 - イ. 次のいずれかの「外国人のための日本語能力テスト」の成績表等（コピー不可、必ず原本提出すること。後日返却）
 - ・日本語能力試験の成績表（原本）
 - ・BJT ビジネス日本語能力テストの成績表（原本）
 - ・日本留学試験の成績通知書（原本）
 - ・J.TEST の成績表または認定証（原本）
 - ・日本語 NAT-TEST の成績表または合格証（原本）

- 申請期間は掲示で周知します。所定の提出期限を厳守してください。期限後の提出は一切認めません。
注) 申請期間は、前期の年間履修登録期間および後期の履修登録変更期間の年2回
- 審査結果は掲示もしくは個別に本人へ通達します。

(4) 「放送大学で修得した単位互換協定科目」の単位認定

① 制度概要

- 本学は放送大学と単位互換協定を結んでいるため、本学入学後に放送大学の授業科目を履修し修得した単位は 30 単位を超えない範囲で、本学の単位として認定することができます。ただし、本学の卒業に必要な単位への算入は 6 単位までとします。
- 本学入学後に他の大学・短大等において履修した授業科目について修得した単位の認定がある場合は、放送大学で修得した単位を合わせて 30 単位を超えない範囲で、本学の単位として認定されます。ただし、放送大学の単位互換制度による履修科目の本学の卒業に必要な単位への算入は、6 単位までとします。
- 放送大学と単位互換協定により単位を認定された科目は、総合教育科目の各区分（人間系科目、社会系科目、自然・情報系科目、総合系科目、外国語系科目）のいずれかに含まれます。

② 単位互換協定科目および放送大学の特別聴講生の申請等について

- 放送大学は、テレビやラジオ、インターネットで授業を行う正規の大学（通信制）であり、18 歳以上であれば学歴等を問わず誰でも受講できます（受講には 1 単位あたり別途受講料が必要です）。
- 放送大学の授業科目を履修するには、所定の期間に特別聴講生として申請する必要があります。申請方法や単位互換協定科目、受講申込期間は掲示で案内します。なお、年度により日程や単位互換協定科目が異なりますので、履修を希望する場合は教務係で必ず確認してください。
- 放送大学の単位認定試験は放送大学が指定する方法で各自受験してください。

③ 留意事項

- 単位認定対象科目は、本学に入学後、放送大学の単位互換制度により修得した単位のみが対象となります。
- 放送大学の単位互換制度による単位認定は、講座受講の申し込みにより単位認定申請とみなされます。

5 試験

単位を修得するにあたって、各学期末に試験期間を設けて定期試験を実施します。ただし、授業科目によっては、この期間外に行うこともあります。

5-1 試験の種類および形式

本学では主な試験を次のように分類しています。

試験の種類	内容
定期試験	学期末に期間を定めて実施される試験です。
追試験	やむを得ない理由（天災、公共交通機関の遅れ、病気等）により定期試験を受けられなかつた者に実施される試験です。
再試験	成績が合格点に達しなかつた場合に行う試験です。 原則として実施しません。ただし、必要に応じて科目担当教員等の判断により行う場合があります。

試験は、主に筆記試験、面接(口頭)試験、レポート提出または実技のいずれか、または複数の形式を用いて行われます。試験の形式は授業科目によって異なりますので、詳細はシラバスや教員の指示を確認してください。

5-2 受験資格

- 受験できる科目は、履修登録をしている科目に限られます。
- 出席時間数が授業時間数の3分の2に達しない授業科目については、当該授業科目に係る定期試験を受験することができません。また、定期試験に代えて、論文や報告書（レポート）の提出が課されている場合は、当該授業科目の定期試験に代わる論文、報告書（レポート）を提出することはできません。
- 実験・実習・実技など、特に出席を重視する科目においては、必要とされる出席時間数が上記とは別に定められることがあるので、科目担当教員の指示に従ってください。
- その期の学生納付金未納者は、定期試験を受験できない場合があります。

5-3 試験の実施時期

- 定期試験は原則として、前期末（7月）と後期末（1月）の一定期間に実施します。
- 前期前半科目や後期前半科目は、定期試験期間とは別に試験を行う場合があります。
- 前後期にわたる通年の授業科目については、前期の終わりに定期試験に準じた試験を行う場合があります。
- 定期試験期間中は原則通常の授業を行いません。
- 科目によっては、授業期間内に試験を行うことがあります。教員の指示または掲示で連絡されますのでよく確認してください。

5-4 試験時間

定期試験期間は次の時間帯で試験を実施します。通常の授業時間とは異なりますので注意してください。

時限	試験時間帯	時間
1 時限	9:30 ~ 10:30	[60分]
2 時限	10:50 ~ 11:50	[60分]
3 時限	13:00 ~ 14:00	[60分]
4 時限	14:20 ~ 15:20	[60分]
5 時限	15:40 ~ 16:40	[60分]
6 時限	17:00 ~ 18:00	[60分]

5-5 試験に関する注意事項

5-5-1 成績評価に係る試験受験上の注意事項

試験を受験する時は次のことに注意してください。

- 試験は、授業の時と異なる教室、曜日、時限で実施することがあります。掲示される試験時間割表を確認してください。
- 試験室では監督者の指示に従ってください。
- 定期試験（定期試験に準じるものも含む。）追試験、再試験において、いかなる理由であっても不正行為や不正行為と受け取られる行為をしてはいけません。不正行為を行った場合、その期に履修登録した科目の成績がすべて不可となります。

- 試験当日は学生証を持参し、机上の指示された側に置いてください。学生証の提示がない場合は受験できません。万が一学生証を忘れた、または当日紛失した場合は、教務係窓口にて「仮学生証」(当日限り有効)を発行してください (仮学生証については「B.大学生活を送るにあたって」の「4-3.学生証の再発行と仮学生証の交付」を参照してください)。
- 試験開始後20分までは入室を認めます。なお、試験開始後20分を過ぎた場合は入室を認めず、欠席扱いとします。
- 試験開始後30分から試験終了5分前までは原則として退出を認めます。
- 事前に持ち込みを許可された物以外は、机上に置くことはできません。
- 試験室に入室後は携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等のウェアラブル端末、音の出る機器等は、アラームを解除してから電源を切り、かばんの中にしまってください。机上にて時計として使用したり、身に着けて受験したりすることはできません。
- 公共交通機関の遅れ等で受験できなかった場合は、追試験の申請をすることができます (申請方法については「D.履修ガイド」の「5-6.追試験」を参照してください)。

5-5-2 レポート課題に関する注意事項

- レポート課題は、授業内やGoogleClassroomで、教員から課題および提出方法について説明されます。また、掲示で連絡する場合もあります。
- 提出方法については教員の指示した方法を厳守してください。指定した方法でない場合、未提出扱いになることがあります。
- レポート課題の提出期限は時間厳守となります。提出期限に遅れた場合、提出することはできません。
- レポート課題提出後に差し替え、本文への加筆等は認められませんので注意してください。

5-5-3 不正行為

- (1) 定期試験（定期試験に準じるものも含む。）追試験、再試験において、いかなる理由であっても不正行為や不正行為と受け取られる行為をしてはいけません。不正行為を行った場合、その期に履修登録した科目の成績がすべて不可となります。
- (2) 成績評価に係るレポート課題の作成にあたり、次の行為を行った場合、不正行為とみなすことがありますので注意してください。
 - 他人の著作物やインターネット上の情報等を参考または引用したにも関わらず、引用箇所の明示や出典の記載がなく、自分の考えとしてそのまま記載すること。
 - 他人が作成したレポートを模倣、または転記し、自分の考えとして記載すること。
 - 他人に依頼して作成されたレポートを、自分が作成したレポートとして提出すること。
 - 自分が作成したレポートを他人に提供し、盗用する機会を与えること。
 - その他、情報の盗用に関する事。

(3) 以下のいずれかの行為を行った場合、不正行為とみなすことがありますので注意してください。

- 他人の答案を見ること、又は故意に答案を見せること。
- 他人に答案を代筆させること、又は答案を代筆すること。
- 他人と答案を交換すること。
- 他人に代理で受験させること、又は代理で受験すること。
- 持ち込みが許可されていない参考資料等を用いて答案を作成すること。
- 書き込みが許可されていない持ち込み資料に書き込みをして参照すること。
- 持ち込みが許可されたものを、試験時に他の受験者と共有して使用すること。
- カンニングペーパー、机上・手掌・所持品等への書き込み、又はこれに類するものを用いて答案を作成すること。
- 言語、合図、動作、その他の方法で意思伝達を行い、他人と相談して答案を作成すること。
- 携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ、ウェアラブル端末、パソコン、電子辞書等の情報通信機器を使用すること。又はそれらを身に着けたまま受験したり、指示された以外の場所・状態で保管したりすること（それらの機器を教室に持ち込む場合は必ずかばんの中にしまわなければならない）。
- 要回収の試験問題、解答用紙を試験場外に故意に持ち出すこと。
- 試験監督者の指示、注意に従わない行為。
- レポート等の作成において、他人の著作物・情報を盗用する行為やインターネット上の情報等を参照又は引用したにも関わらず、引用箇所の明示や出典の記載がなく、自らの考えとしてそのまま記載すること。
- 他人が作成したレポートを模倣、又は転記し、自らの考えとして記載すること。
- 他人に依頼もしくは人工知能（A I）技術その他の情報技術による文書作成機能等により作成されたレポートを、自らが作成したレポートとして提出すること（当該文書作成機能等による作成について、許可された場合を除く）。
- 自らが作成したレポートを他人に提供し、盗用する機会を与えること。
- 前各号に定める他、定期試験等の公正な実施及び成績評価を阻害すると認められる一切の行為。

5-6 追試験

追試験とは、やむを得ない理由により定期試験を受けられなかった者に実施される試験のことをいいます。

5-6-1 追試験の受験資格

疾病、事故、忌引き、公共交通機関の遅れ等、やむを得ない理由により定期試験を欠席した者で、追試験の申請手続きを行い、これを認められた者は追試験を受験することができます。

5-6-2 追試験の申請

(1) 追試験の申請方法

やむを得ない理由によって定期試験を欠席し、追試験を希望する場合は、欠席の理由を証明できるものを添えて教務係へ「追試験申請書（本学所定用紙、教務係にて配付）」を提出してください。

「欠席の期間とその理由を証明できるもの」

医師の診断書、遅延証明書、事故証明書、葬儀が行われたことがわかる文書（会葬礼状等）

(2) 追試験の申請期限

申請期間については掲示にて連絡します。万が一期限内に申請できない場合は教務係へ連絡してください。

何らかの事情で本人が申請できない場合には代理人の申請も許可します。ただし、代理人の過失等で申請できなかった場合の特別な配慮は行いません。

5-6-3 追試験による試験の成績

追試験を受験した場合の試験の成績評価は90点を上限とします。

5-7 再試験

再試験とは、定期試験において成績が合格の基準を満たさなかった場合に行われる試験のこととをいいます。

5-7-1 再試験の実施

再試験は、原則として実施しません。ただし、必要に応じて科目担当教員等の判断により行なうことがあります。

5-7-2 再試験の受験資格

定期試験を受験し合格の基準を満たさなかった者で、科目担当教員等が許可した者に限り再試験を受験することができます。

5-7-3 再試験対象者の発表と申請

- 再試験の実施については、定期試験後、実施科目、試験内容、再試験対象者を掲示にて連絡します。
- 再試験対象者は、指定された申請期間内に、「再試験願」に再試験料（1科目につき2,000円）の証紙を貼付し教務係に提出してください。

5-7-4 再試験申請時の注意事項

- 再試験の申請期間を掲示で必ず確認し、申請漏れがないように注意してください。
- 再試験の方法がレポートまたは面接試験など筆記試験以外の場合も再試験の申し込みを行ってください。申請期間内に申請がない場合は再試験を受験することはできません。
- 何らかの事情で本人が申請できない場合は代理人による申請も許可します。ただし、代理人の過失等で申請ができなかった場合に特別な配慮は行いません。

5-7-5 再試験による試験の成績

- 再試験で合格した場合のその科目的成績評価は「可（60点）」とします。
- 定期試験、再試験ともに不合格の場合は、定期試験の成績評価が最終評価になります。

6 成績

履修登録をしている科目の成績評価は、定期試験や授業期間中の修学状況等の評価により判定されます。成績判定の結果、合格になった場合は単位修得となります。

6-1 成績評価

- (1) 授業科目の成績の評価は、秀、優、良、可、不可の5種とし、秀、優、良、可を合格、不可を不合格とします。
- (2) 成績評価は、次の基準により行います。

評価（和）	評価（英）	評価（総合得点）	合否
秀	S	100点満点法による 100点から 90点まで	合格
優	A	100点満点法による 89点から 80点まで	
良	B	100点満点法による 79点から 70点まで	
可	C	100点満点法による 69点から 60点まで	
不可	D	100点満点法による 59点以下	不合格
認定	R	単位認定科目	—

- (3) 授業科目によっては、論文・報告書（レポート）の提出、平素の修学状況を試験に代える場合や、試験結果に加味する場合があります。

6-2 成績の発表

6-2-1 成績発表の方法

成績発表は UNIPA で行われます。UNIPA による成績照会の方法については「F.資料集」の「3-1. 「UNIVERSAL PASSPORT」操作説明書」を参照してください。

6-2-2 成績発表における注意事項

- 成績結果開示期間は掲示で確認してください。
- 成績結果開示期間以外は閲覧ができませんので、開示期間中に印刷し、各自保管してください。
- 成績結果は、修得科目のすべてが記載されています。次年度の履修計画を立てるための重要な資料となりますので、大切に保管してください。
- 本学は保護者にもUNIPA UserIDを付与していますので、保護者がUNIPAで成績を閲覧することができます。また、本学は保護者宛に出席状況、成績、単位修得状況等の学修の状況を通知する場合があります。

6-3 成績の問い合わせ

- 成績をよく確認し、不明点がある場合は所定の期間内に成績結果を印刷し教務係に申し出てください。成績の問い合わせ期間については、掲示にて連絡します。

6-4 GPA制度（GPAとf-GPA）

本学では、学生の学修意欲を高め、適切な履修指導や厳格な成績評価を推進し、学びの質を向上させることを目的として、「GPA（Grade Point Average）制度」を導入しています。

6-4-1 GPAとf-GPA

(1) GPA (Grade Point Average) とは

履修登録した科目の1単位あたりの成績平均値のことであり、成績基準のひとつです。

【GPA値の算出方法】

履修科目ごとの5段階評価（秀、優、良、可、不可）を4.00から0までの点数（GP : Grade Point）に置き換え、修得した授業科目の単位数を乗じ、その総和（GPT : Grade Point Total）を履修登録した単位数の合計で除して算出します。

GPAの計算式

$$\text{GPA} = \frac{[(\text{修得した単位数}) \times (\text{その科目で得たGP})] \text{ の総和}}{\text{履修登録した総単位数} \text{ (不可科目含む)}}$$

(2) GPA の成績評価基準

評価 (和)	評価 (英)	評価 (総合得点)	評価基準	GP
秀	S	100~90 点	学修目標をほぼ完全に達成するか、または傑出した水準に達している。	4.00
優	A	89~80 点	学修目標を相応に達成している。	3.00
良	B	79~70 点	不十分な点があるが、学修目標を相応に達成している。	2.00
可	C	69~60 点	学修目標の最低限は満たしている。	1.00
不可	D	59 点以下	不合格	0
認定	R	—	単位認定科目 (GPA 対象外)	—

注) 本学では、絶対評価<到達度評価>により成績評価を行います。

<到達度評価>

シラバス記載の「授業の到達目標」に対する達成度を得点化し、科目ごとの総合得点(0~100点)により成績評価を行うこと。

(3) f-GPA (functional-GPA) とは

本学では、より厳正な評価方法としてf-GPA値を算出し、表彰等の一基準に用いています。

【f-GPA 値の算出方法】

f-GPA 値は、得点範囲に応じた評価に対応した点数を付与する GPA 値に対し、100 点～60 点まですべての総合得点に対し、0.1 ポイント刻みで GP を付与し、その総和を履修登録した単位数の合計で除し算出します。この算出方法により、GPA 値よりさらに厳正な成績評価が可能となります。

f-GPA の計算式

$$f\text{-GPA} = \frac{[(\text{修得した単位数}) \times (\text{その科目で得たf-GPA用のGP})] \text{ の総和}}{\text{履修登録した総単位数 (不可科目含む)}}$$

(4) f-GPA の成績評価基準

評価(和)	評価(英)	評価 (総合得点)	f-GPA 用の GP	GP
秀	S	100	4.50	4.00
		99	4.40	
		98	4.30	
		90	3.50	
優	A	89	3.40	3.00
		88	3.30	
		87	3.20	
		80	2.50	
良	B	79	2.40	2.00
		78	2.30	
		77	2.20	
		70	1.50	
可	C	69	1.40	1.00
		68	1.30	
		67	1.20	
		60	0.50	
不可	D	59	0	0
		58	0	
		0	0	

※GP < 0.5 の場合は 0 とする。

6-4-2 GPA 制度の適用範囲（算入される科目）

GPA 制度に算入される対象科目は、当該学期において履修登録したすべての科目（成績が不可になった科目や再試験により修得した科目などを含む）が対象となります。ただし、次の科目は GPA の対象科目から除かれます。

【GPA 制度の非適用範囲科目】

- 本学科目等履修生制度や他大学等で単位修得し、本学が「認定」した科目
- 他大学との単位互換協定により修得し、本学が「認定」した科目
- TOEIC・英検により、本学が「認定」した科目
- 本学が定めた「外国人のための日本語テスト」により、本学が「認定」した科目
- その他、本学が「認定」したすべての科目

6-4-3 GPA 制度の活用

本学では GPA 制度を次のとおり活用します。

- (1) 学生本人が成績、履修状況を把握し、学修を向上させる資料として（使用値：GPA, f-GPA）
 - ・成績開示期間に限り通算および年度学期別の GPA 値、f-GPA 値を UNIPA で確認できます。成績照会方法については「F.資料集」の「3-1. 「UNIVERSAL PASSPORT」操作説明書」を確認してください。
- (2) 学生指導を行ううえでの教育、成績、履修指導の指標として（使用値：GPA, f-GPA）
 - ・2 学期連続して GPA が 1.5 未満で、かつ累積 GPA が 1.5 未満の学生に対し、退学勧告を行うことがあります。ただし、退学勧告は、学生が学習意欲を持ち、主体的に学習するよう、繰り返し注意や指導を行ったにもかかわらず成績向上や学業への取り組み姿勢の改善が見られない場合に行うものであり、退学を強要・強制するものではありません。
- (3) 成績優秀賞表彰の一基準として（使用値：f-GPA）
 - ・国際医療福祉大学年間成績優秀賞の表彰者を選考する一基準として活用します。
- (4) 授業料免除の一基準として（使用値：f-GPA）
 - ・特待奨学生の奨学金給付停止または給付停止解除の判断基準として活用します。
特待奨学生に関する問い合わせ先：学生係
- (5) 奨学金貸与者選考の一基準として（使用値：GPA, f-GPA）
 - ・各種奨学金のうち、学校推薦が必要な奨学金の学内推薦者を決定する判断基準の一つとして活用します。
- (6) 履修者を選抜する必要がある科目の一基準として（使用値：f-GPA）
 - ・履修者を制限している科目、履修コースの選択について、履修者を選抜するための一基準として活用する場合があります。

6-4-4 GPA 値および f-GPA 値の確認および通知

(1) GPA 値

成績証明書および学期ごとに UNIPA で公開される成績結果に記載されます。

(2) f-GPA 値

学期ごとに UNIPA で公開される成績結果に記載されます。

6-4-5 GPA 制度に関する留意事項

- 本学のGPA制度では、履修登録を行ったすべての科目がGPA算出の対象となります。よって、不可となった科目や履修を放棄した科目であってもGPA算出対象となります。再履修により合格になった場合にも、累積された不可は除外されません。
- 学科オリエンテーションでの説明やシラバスを十分に確認し、責任をもって学修計画を立案・履修登録してください。履修登録科目に迷う場合は学科の担当教員に相談してください。
- 所定の履修登録期間内であれば履修科目の取り消しを各自行うことができます。

7 進級と卒業

7-1 進級

大学では、各学科が指定する授業科目の単位を指定する学年に修得する必要があるなど、一定の基準を満たさなければ次学年に進級することができない場合があります。

7-1-1 進級条件

- 各学科が指定した授業科目の単位を指定した学年までに修得しなければ進級することができない場合があります。このような進級するために設定されている科目や年限の指定を「進級条件」といいます。
- 進級条件は、学科および学年により異なります。進級条件は「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を確認してください。

7-1-2 進級者発表

- 学年末に進級判定を行います。結果はUNIPAの学籍情報照会にて発表します。
- 進級者発表の期日は、事前に掲示にて案内します。
- 進級することができなかった場合は留年となり、もう一度同じ学年に在籍し、修得できなかつた科目を再履修することになります（再履修については「D.履修ガイド」の「4.科目履修」を参照してください）。
- 進級条件に満たない学生は、保護者宛に進級判定結果を郵送します。

7-2 卒業

7-2-1 卒業要件

大学を卒業するためには、次の要件を満たす必要があります。

- (1) 修業年限を満たすこと。

小田原保健医療学部では4年以上本学に在学している必要があります。ただし、休学期間は卒業に必要な在学期間には含まれません。

- (2) 所属する学部・学科の指定する卒業要件を満たすこと。

学科ごとに指定された必修科目全てと選択科目を合わせて、卒業に必要な単位を修得しなければなりません。卒業要件は、学科ごとに異なります。卒業要件は「D.履修ガイド」の「8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧」を確認してください。

7-2-2 卒業要件に関する注意事項

- 学科により、総合教育科目の系統（人間系、社会系、自然・情報系、総合系、外国語系、保健体育系）ごとに卒業に必要な最低単位数が定められている場合があるので注意してください。
- 外国語系科目は、英語の必修科目と英語以外の外国語系の選択科目から所定の単位数を修得することが卒業の条件となることがあります。所属する学科の外国語系科目の履修条件を確認してください。
- 外国語系科目の中で、日本語科目は留学生のための履修科目（留学生以外の履修は不可）です。
- 卒業要件に満たない場合は留年となります。

7-2-3 卒業者発表

- 卒業年度末に卒業判定を行います。結果は、UNIPAの学籍情報照会にて発表します。
- 卒業判定結果は開示期間が限られています。期間は事前に掲示にて案内します。
- 卒業要件に満たない学生は、保護者宛に卒業判定結果を郵送します。

8.学科ポリシー／卒業要件・進級条件／科目一覧

小田原保健医療学部

- 8-1 看護学科**
- 8-2 理学療法学科**
- 8-3 作業療法学科**
- 8-4 留学生**
- 8-5 アセスメントポリシー**

8 学科ポリシー／卒業要件・進級条件／履修科目一覧

8-1 小田原保健医療学部 看護学科

8-1-1 教育研究上の目的

学部の教育研究上の目的

小田原保健医療学部は、看護学、理学療法学、作業療法学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれ十分な知識と技能を有し、保健医療の実践を担うことのできる応用能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成することを目的とする。

看護学科の教育研究上の目的

看護学科は、看護職に必要な知識と技能を修得するとともに、国際的視野を持つ幅広い教養と深い人間理解、倫理観を涵養し、コミュニケーション能力や現場で即応できる判断力を身に付けた看護師、保健師の育成を目的とする。

8-1-2 アドミッションポリシー

1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、看護職者として、豊かな感性、コミュニケーション能力を発揮して人間理解に努めるとともに、国際的感覚を持ち、創造的に課題解決に取り組むための自己研鑽・自己開発の基礎能力と方法を身につけ、自らの健康を大切にしつつ、「共に生きる社会」の実現に貢献することが期待できる人

2. 看護学科の入学者に求める要件

1) 知識・技能

高等学校の教科科目を通して修得した基礎知識と語学力による読解力・文章力・コミュニケーション能力、主として理数系科目により身につけた論理的な思考力、科学的な理解力を有していること。

2) 思考力・判断力・表現力

看護学を学ぶにあたり、相手を思いやり、誠実な人間関係を築くための柔軟な発想力と寛容性、個人・家族・地域社会のつながりや仕組みについて理解し考え行動できる思考力・分析力・判断力及び表現力を有していること。

3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

看護職者として本学の基本理念及び教育理念を理解し、「共に生きる社会」の実現をめざして、多様な人々の生き方・暮らしについて興味を持ち、看護学の学びを通じて国内外の保健・医療・福祉分野の発展に貢献する意志を持ち、主体的に学修を進める意欲と多職種の役割を理解し協働する態度を身に附けていること。

8-1-3 ディプロマポリシー

看護学科では所定の単位を修得し、次に掲げる学科の特性を考慮した学科ディプロマ・ポリシーを達成した学生に学位を授与する。

DP1: 看護専門職を目指すものとして、社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけています。

DP2: 看護学の基礎となる学問を理解する専門職業人としての基盤力を養い、関連職種の機能を理解し、看護の対象となる人々の利益のために連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につけています。

DP3: 個人、家族、組織、地域社会における人々の健康課題を査定し、基本的な看護実践を行うための知識・技術・態度を身につけています。

DP4: 看護を必要とする様々な事象について論理的かつ多面的に理解し、自らの考えを表現し、行動する資質と能力を身につけています。

DP5: 未知の事象に対し、専門的知識や技術力を統合して創造的に課題解決に取組むための専門職業人としての基盤力と探究力を身につけています。

DP6: 看護専門職を目指す者として、責務を果たすために、必要な自己研鑽を重ねることの意義を理解し、自己開発の方法を身につけています。

8-1-4 カリキュラムポリシー

看護学科では教育目標を学生が達成できるよう、次の方針に則り教育課程を編成・実施する。

CP1: 看護専門職者としての基盤となる社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけるための科目を設定する。

CP2: 看護学の基礎となる学問を理解する専門職業人としての基盤力を養い、関連職種の機能を理解し、看護の対象となる人々の利益のために連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につけるための科目を設定する。

CP3: 個人、家族、組織、地域社会における人々の健康課題を査定し、基本的な看護実践を行うための知識・技術・態度を身につけるための科目、および、看護を必要とする様々な事象について論理的かつ多面的に理解し、自らの考えを表現し、行動する資質と能力を身につけるための科目を設定する。

CP4: 未知の事象に対し、専門的知識や技術力を統合して創造的に課題解決に取組むための基盤力と探究力を身につけるための科目、および、看護専門職者としての責務を果たすために、必要な自己研鑽を重ねることの意義を理解し、自己開発の方法を身につけるための科目を設定する。

(教育目標)

<1年次 (SB0s1) >

- CP1：幅広い教養と豊かな感性を培い、人間を理解するための基盤力、語学力を高める。
- CP2：人間と環境を理解するための諸科学を学び、看護学に応用するための基盤を固める。
- CP3：個人や家族の健康状態を査定し、健康課題を解決するための看護の視点を身につける。
- CP4：自らの学修課題を認識し、自らを動機づけ、主体的な学修活動を行うことができる。

<2年次 (SB0s2) >

- CP1：豊かな教養を持ち、グローバルな視点で考える力、異文化を理解する力、国際的な感覚を身につける。
- CP2：保健医療福祉関連職の機能や社会の仕組みを理解し、看護に活用するための基盤を固める。
- CP3：必要な看護を査定、計画、実践、評価し改善を行うための基礎的知識・技術・態度を身につける。
- CP4：演習や実習に主体的に取組むことができ、看護専門職者としての自己研鑽力の基盤ができている。

<3年次 (SB0s3) >

- CP1：多様性を理解し、自らの考えをもち、論理的かつ建設的に思考する力を身につける。
- CP2：保健医療福祉関連職の機能や社会の仕組みに関する知識を看護に応用することができる。
- CP3：必要な看護を行うための知識・技術・態度を実習で具体的に行うことができる。
- CP4：看護に関する未知の事象への興味関心を表現でき、探究活動を開始することができる。

<4年次 (SB0s4) >

- CP1：看護専門職者の社会的責務を認識し、倫理観に基づいた看護を行う基盤を固める。
- CP2：対象を中心とした保健医療福祉を行うための看護の知識・技術・態度、関連職種と連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につける。
- CP3：複雑な健康課題、組織や地域社会の健康関連課題を論理的かつ多面的に理解し、看護するための知識・技術・態度を身につける。
- CP4：看護研究を行うための基本的な知識・技術・態度を身につける。

看護学科DP-教育目標カリキュラムマップ(2025年度入学生版)

黒字:必修科目、青字:選択科目

()内は単位数

		ティプロマ・ポリシー(DP)						
各年次の教育目標(到達目標・SBOs)	1年次	【DP1】看護専門職を目指す者として、社会的責務と倫理観を根幹とした幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、一人の人間として豊かな心を身につけています。	【DP2】看護学の基礎となる学問を理解する専門職業人としての基盤力を養い、関連職種の機能を理解し、看護の対象となる人々の利益のために連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につけています。	【DP3】個人、家族、組織、地域社会における人々の健康課題を査定し、基本的な看護実践を行うための知識・技術・態度を身につけています。	【DP4】看護を必要とする様々な事象について論理的かつ多面的に理解し、自らの考えを表現し、行動する資質と能力を身につけています。	【DP5】未知の事象に対し、専門的知識や技術力を統合して創造的に課題解決に取組むための専門職業人としての基盤力と探究力を身につけています。	【DP6】看護専門職を目指す者として、責務を果たすために必要な自己研鑽を重ねることの意義を理解し、自己開発の方法を身につけています。	
		【SBOs1/CP1】幅広い教養と豊かな感性を培い、人間を理解するための基盤力、語学力を高める。	【DP1/SBOs1/CP1】医療必修・医療の倫理とプロ意識・医療情報(1)、大学入門講座(1) 文学論(2)、演劇論(1)、心理学(2)、哲学(2)、歴史学(2)、倫理学(2)、宗教学(2)、日本近現代史(2)、文化人類学(2)、死生学(2)、法学(2)、法と道徳・倫理(2)、社会学(2)、マスマディア論(2)、経済学基礎 I(2)・II(2)、国際医療福祉論(2)、医学/医療史(2)、総合講義(1)	【DP2/SBOs1/CP1】コミュニケーション概論(2)、英語A-1(1)・A-2(1)・B-1(1)・B-2(1) 医療関連法規(2)、教育課程論(2)、メディカルマナー入門(2)、雑談と傾聴(2)、資格英語I(1)・2(1)、基礎英会話I(1)・2(1)、ドイツ語初級I(1)・2(1)、中国語初級I(1)・2(1)、日本語I-A(1)・I-B(1)・II-A(1)・II-B(1)・II-C(1)・II-D(1)・III-A(1)・III-B(1)・III-C(1)・III-D(1)※日本語は留学生のみ	【DP3/SBOs1/CP1】組織運営管理論(2)、発達心理学(1)、特別支援教育概論(1)	【DP4/SBOs1/CP1】	【DP5/SBOs1/CP1】	【DP6/SBOs1/CP1】
		【SBOs1/CP2】人間と環境を理解するための諸科学を学び、看護学に応用するための基盤を固める。	【DP1/SBOs1/CP2】教職入門(2)	【DP2/SBOs1/CP2】解剖学I(1)・II(1)、生理学I(1)・II(1)、栄養学(1)、微生物学(1)、臨床心理学概論(1)、看護コミュニケーション論(1) 物理学(2)、化学(2)、生物学(2)、医療管理学(2)、社会福祉学(2)、福祉支援工学概論(2)	【DP3/SBOs1/CP2】看護学原論(1)、公衆衛生看護学概論(2) 人間工学(2)、リスクマネジメント論(2)	【DP4/SBOs1/CP2】人間学(2)	【DP5/SBOs1/CP2】統計学(2)、データリテラシー(1)、データサイエンスとAIの基礎(1)	【DP6/SBOs1/CP2】
		【SBOs1/CP3】個人や家族の健康状態を査定し、健康課題を解決するための看護の視点を身につける。	【DP1/SBOs1/CP3】	【DP2/SBOs1/CP3】保健医療福祉制度論(2) ケースワーク論(1)	【DP3/SBOs1/CP3】公衆衛生学(2)、我が国の社会福祉・医療保障政策の知識(1)、看護援助論I(看護援助の基本)(1)、看護援助論II(生活援助)(2) 医療福祉教養講義(1)、健康科学理論(1)、健康科学実践(1)	【DP4/SBOs1/CP3】リハビリテーション概論(2)、看護過程展開論(1)、フィジカルアセスメントI(基礎)(1)	【DP5/SBOs1/CP3】	【DP6/SBOs1/CP3】
		【SBOs1/CP4】自らの学修課題を認識し、自らを動機づけ、主体的な学修活動を行うことができる。	【DP1/SBOs1/CP4】	【DP2/SBOs1/CP4】フィールド体験実習(1) 教育学(2)	【DP3/SBOs1/CP4】	【DP4/SBOs1/CP4】ボランティア論(2)	【DP5/SBOs1/CP4】	【DP6/SBOs1/CP4】基礎看護学実習I(基礎)(1)
	2年次	【SBOs2/CP1】豊かな教養を持ち、グローバルな視点で考える力、異文化を理解する力、国際的な感覚を身につける。	【DP1/SBOs2/CP1】	【DP2/SBOs2/CP1】看護英語I(1) 英語A-3(1)・A-4(1)、英語C-1(1)・C-2(1)	【DP3/SBOs2/CP1】	【DP4/SBOs2/CP1】	【DP5/SBOs2/CP1】	【DP6/SBOs2/CP1】
		【SBOs2/CP2】保健医療福祉関連職の機能や社会の仕組みを理解し、看護に活用するための基盤を固める。	【DP1/SBOs2/CP2】道徳教育の理論と実践(1)、特別活動及び総合的な学習の時間の基礎(1)、看護倫理学(1)	【DP2/SBOs2/CP2】	【DP3/SBOs2/CP2】保健統計学I(1)、リプロダクティブヘルス看護学概論(1)、小児看護学概論(1)、成人看護学概論(1)、老年看護学概論(1)、精神看護学概論(1)、地域・在宅看護学概論(1) 家族看護論(1)	【DP4/SBOs2/CP2】	【DP5/SBOs2/CP2】疫学(2)、医療データサイエンスI(DS基礎)(1)、医療データサイエンスII(AI基礎)(1)	【DP6/SBOs2/CP2】
		【SBOs2/CP3】必要な看護を査定、計画、実践、評価し改善を行なうための基礎的知識・技術・態度を身につける。	【DP1/SBOs2/CP3】教育方法論(2)、生徒指導論(1)、養護概説(2)、教育相談の基礎と方法(1)	【DP2/SBOs2/CP3】病理学(1)、薬理学(1)	【DP3/SBOs2/CP3】看護援助論Ⅲ(診療援助)(2)、成人看護学方法論I(急性期・周手術期看護)(2)、地域・在宅看護学方法論I(地域生活の理解)(2)、健康教育・保健指導論(1) ケアマネジメント論(1)	【DP4/SBOs2/CP3】疾病・治療論I(1)・II(1)・III(1)・IV(1)・V(1)、フィジカルアセスメントⅡ(発展)(1)、精神看護学方法論(2) 救急医学(1)	【DP5/SBOs2/CP3】医療情報学概論(2)、生体情報処理概論(2)	【DP6/SBOs2/CP3】
		【SBOs2/CP4】演習や実習に主体的に取組むことができ、看護専門職者としての自己研鑽力の基盤ができる。	【DP1/SBOs2/CP4】	【DP2/SBOs2/CP4】解剖学・生理学演習(1)、関連職種連携論(2)	【DP3/SBOs2/CP4】基礎看護学実習Ⅱ(発展)(2)	【DP4/SBOs2/CP4】看護過程演習(1)	【DP5/SBOs2/CP4】海外保健福祉事情I(講義)(1) 海外保健福祉事情II(実習)(1)	【DP6/SBOs2/CP4】
3年次	3年次	【SBOs3/CP1】多様性を理解し、自らの考えをもち、論理的かつ建設的に思考する力を身につける。	【DP1/SBOs3/CP1】	【DP2/SBOs3/CP1】	【DP3/SBOs3/CP1】保健統計学II(1)	【DP4/SBOs3/CP1】	【DP5/SBOs3/CP1】	【DP6/SBOs3/CP1】
		【SBOs3/CP2】保健医療福祉関連職の機能や社会の仕組みに関する知識を看護に応用することができる。	【DP1/SBOs3/CP2】	【DP2/SBOs3/CP2】関連職種連携ワーク(1) 看護英語II(1)	【DP3/SBOs3/CP2】災害看護論(1)、看護管理論(1)	【DP4/SBOs3/CP2】	【DP5/SBOs3/CP2】	【DP6/SBOs3/CP2】
	3年次	【SBOs3/CP3】必要な看護を行うための知識・技術・態度を実習で具体的に行なうことができる。	【DP1/SBOs3/CP3】	【DP2/SBOs3/CP3】精神看護学演習(1)	【DP3/SBOs3/CP3】小児看護学実習(2)、成人看護学方法論II(慢性期看護)(2)、成人看護学方法論III(がん看護、終末期看護)(1)、成人・老年看護学実習II(慢性期看護)(2)、成人・老年看護学実習III(高齢者の理解)(1)、地域・在宅看護学方法論II(地域療養の支援)(2) 公衆衛生看護学対象別活動論(2)、公衆衛生看護学実習I(健康支援)(2)	【DP4/SBOs3/CP3】リプロダクティブヘルス看護学方法論(2)、リプロダクティブヘルス看護学演習(1)、リプロダクティブヘルス看護学実習(2)、小児看護学方法論(2)、成人・老年看護学実習I(急性期看護)(2)、老年看護学方法論(2)、成人・老年看護学実習IV(健康障害のある高齢者の看護)(2) 公衆衛生看護学方法論I(基礎)(1)、ヘルスアセスメント論(1)	【DP5/SBOs3/CP3】小児看護学演習(1)、老年看護学演習(1)、精神看護学実習(2)	【DP6/SBOs3/CP3】学校看護学実習(1)、学校における看護活動(1)
		【SBOs3/CP4】看護に関する未知の事象への興味関心を表現でき、探究活動を開始することができます。	【DP1/SBOs3/CP4】	【DP2/SBOs3/CP4】	【DP3/SBOs3/CP4】	【DP4/SBOs3/CP4】	【DP5/SBOs3/CP4】看護研究法概説(1)	【DP6/SBOs3/CP4】
4年次	4年次	【SBOs4/CP1】看護専門職者の社会的責務を認識し、倫理観に基づいた看護を行う基盤を固める。	【DP1/SBOs4/CP1】	【DP2/SBOs4/CP1】	【DP3/SBOs4/CP1】	【DP4/SBOs4/CP1】	【DP5/SBOs4/CP1】	【DP6/SBOs4/CP1】
		【SBOs4/CP2】対象を中心とした保健医療福祉を行うための看護の知識・技術・態度、関連職種と連携を図ることのできるコミュニケーション力を身につける。	【DP1/SBOs4/CP2】	【DP2/SBOs4/CP2】関連職種連携実習(1)	【DP3/SBOs4/CP2】	【DP4/SBOs4/CP2】	【DP5/SBOs4/CP2】	【DP6/SBOs4/CP2】
	4年次	【SBOs4/CP3】複雑な健康課題、組織や地域社会の健康関連課題を論理的かつ多面的に理解し、看護するための知識・技術・態度を身につける。	【DP1/SBOs4/CP3】	【DP2/SBOs4/CP3】	【DP3/SBOs4/CP3】成人・老年看護学実習V(認知症を有する高齢者の看護)(1)、看護マネジメント実習(1) 産業における看護活動(1)、公衆衛生看護学実習III(管理)(1)、健康危機管理論(1)、公衆衛生看護管理論(1)	【DP4/SBOs4/CP3】地域・在宅看護学演習(1) 統合技術演習(1)、公衆衛生看護学実習II(活動の展開)(2)	【DP5/SBOs4/CP3】地域・在宅看護学実習(2) 教職実践演習(養護教諭)(2)、保健医療福祉行政論(2)、公衆衛生看護学方法論II(発展)(1)、パリアティブケア(1)	【DP6/SBOs4/CP3】統合看護実習(2) 養護実習(5)、国際看護論(1)
		【SBOs4/CP4】看護研究を行うための基本的な知識・技術・態度を身につける。	【DP1/SBOs4/CP4】	【DP2/SBOs4/CP4】	【DP3/SBOs4/CP4】	【DP4/SBOs4/CP4】統合看護演習(1)	【DP5/SBOs4/CP4】看護研究(2)	【DP6/SBOs4/CP4】

小田原保健医療学部 看護学科 履修系統図（2025年度入学生）

分野・領域	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
人間系	教育学(養:必修) 文学論 心理学 哲学 雑談と傾聴～話す力と聞く力～ 歴史学 日本近現代史 死生学-死を通して生を考える コミュニケーション概論 演劇論 人間学 哲理学 宗教学 日本文化人類学							
社会系	法學(保:選択必修、養:必修) 経済学基礎I(経済原論) 我が国の社会福祉・医療保障政策の知識 経済学基礎II(日本経済論) 法と道德・倫理 社会学 マスメディア論 國際医療福祉論 新織運営管理論 医療関連法規 ボランティア論		海外保健福祉事情 I(講義) 海外保健福祉事情 II(実習)					
自然・情報系	データリテラシー 物理学 化学 生物学 医療必修－医療の倫理とプロ意識・医療情報－ 人間工学 医学/医療史	統計学 データサイエンスとAIの基礎	医療データサイエンス I (DS基礎) 医療データサイエンス II (AI基礎)					
総合教育								
総合系	大学入門講座－医療人・社会人として成長するために－ メディカルマナー入門 総合講義 医療福祉教養講義							
外国語系	英語A-1(講読基礎) 英語B-1(聽解・発話基礎) ドイツ語初級1(基礎) 中国語初級1(基礎) 資格英語1(Primary) 基礎英文法1(Primary) 日本語Ⅰ-A(作文) ^(注1) 日本語Ⅰ-B(文法・語彙) ^(注1)	英語A-2(講読応用) 英語B-2(聽解・発話応用) ドイツ語初級2(応用) 中国語初級2(応用) 資格英語2(Basic) 基礎英文法2(Basic) 日本語Ⅱ-A(作文) ^(注1) 日本語Ⅱ-B(文法・語彙) ^(注1)	英語A-3(講読中級1) 英語C-1(英会話初級)	英語A-4(講読中級2) 英語C-2(英会話中級)				
保健体育系	健康科学理論(保:選択必修、養:必修) 健康科学実践(保:選択必修、養:必修)		日本語Ⅱ-C(発表討論) ^(注1) 日本語Ⅱ-D(専門日本語) ^(注1)	日本語Ⅲ-A(作文) ^(注1) 日本語Ⅲ-B(文法・語彙) ^(注1)	日本語Ⅲ-C(発表討論) ^(注1) 日本語Ⅲ-D(専門日本語) ^(注1)			
専門基礎								
専門基礎科目	公衆衛生学 保健医療制度論 臨床心理学概論 ケースワーク論 社会福祉学 解剖学I(運動器系・内臓学・循環器系) 生理学I(植物性機能) 栄養学 微生物学	リハビリテーション概論 医療管理学 福祉支援工学概論 リスクマネジメント論	医療情報学概論 関連職種連携論 ケアマネジメント論 生体情報処理概論 看護医学(養)	関連職種連携ワーク 看護英語I(基礎) 看護英語II(発展)			関連職種連携実習(若干名) ^(注2)	
養護教諭コース	教職入門(養) 発達心理学(養) 教育課程論(養)	特別支援教育概論(養)	教育方法論(養) 養護概説(養) 特別活動及び総合的な学習の時間の基礎(養)	道徳教育の理論と実践(養) 教育相談の基礎と方法(養) 生徒指導論(養)		学校看護学実習		教職実践演習(養護教諭)(養)
保健師コース	専門基礎科目							
専門分野								
基礎看護学	看護学原論 看護援助論I(看護援助の基本) リプロダクティブヘルス看護学 小児看護学 成人看護学 老人看護学 精神看護学 地域・在宅看護学	看護コミュニケーション論 看護援助論II(生活援助) フィジカルアセスメントI(基礎) 看護過程演習 基礎看護学実習I(基礎)	看護援助論III(診療援助) フィジカルアセスメントII(発展) 看護過程演習 基礎看護学実習II(発展)	リプロダクティブヘルス看護学概論 小児看護学概論 成人看護学概論 老人看護学概論 精神看護学概論 地域・在宅看護学概論	リプロダクティブヘルス看護学実習 小児看護学実習 成人看護学実習II(慢性期看護) 成人看護学実習III(がん看護、終末期看護) 老人看護学実習 精神看護学実習 地域・在宅看護学実習II(地域療養の支援)	リプロダクティブヘルス看護学実習 小児看護学実習 成人・老年看護学実習I(急性期看護) 成人・老年看護学実習II(慢性期看護) 成人・老年看護学実習III(高齢者の看護) 成人・老年看護学実習IV(健康障害のある高齢者の看護) 成人・老年看護学実習V(認知症を有する高齢者の看護)		
公衆衛生看護学		公衆衛生看護学概論		健康教育・保健指導論				
看護の統合と実践		フィールド体験実習		看護倫理学 家族看護論	看護管理論 災害看護論	國際看護論 バリエティプケア ^(注4) 看護マネジメント実習 統合看護実習		看護実習 総合技術演習 ^(注3)
養護教諭コース・専門科目								
保健師コース・専門科目								
必修科目								
選択科目								

(注1) 留学生用日本語科目
 (注2) 関連職種連携実習(選択科目)は人数に限りがあるため履修登録が多い場合は選考とする
 (注3) 統合看護演習と統合技術演習は選択科目であるが、学科の履修指導に従うこと
 (注4) バリエティプケア(選択科目)は3年前に必修科目が多いので4年前期で履修のこと

8-1-5 卒業要件

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得しなければなりません。
なお、必修科目については、「8-1-6 授業科目一覧」を参照してください。

(1) 卒業に必要な単位数【看護学科 2025（令和7）年度入学生】

卒業要件(看護学科)

区分		最低単位数		備考
		必修	選択	
総合教育	人間系	2	-	授業科目一覧で、各系の必修科目を確認すること 選択科目は、各系からそれぞれ指定されている単位数分を修得し、更に、総合教育全体から7単位以上修得すること 自然・情報系、外国語系、保健体育系の2**は自然・情報系、外国語系、保健体育系のいずれかから2単位以上選択の意味。
	社会系	1	-	
	自然・情報系	5	2**	
	総合系	1	-	
	外国語系	4	2**	
	保健体育系	-	2**	
	小計	13	9以上	
専門教育	専門基礎	28	2以上	
	専門	70	2以上	
	小計	98	4以上	
計		111	13以上	
卒業単位数合計		124単位以上		

「看護師」 + 「保健師」

総合教育、専門教育ともに保健師課程で必要な選択科目を授業科目一覧で確認すること

区分		最低単位数		備考
		必修	選択	
総合教育	人間系	2	-	授業科目一覧で、各系の必修科目を確認すること 選択科目は、各系からそれぞれ指定されている単位数分を修得し、更に、総合教育全体から3単位以上修得すること 保健師課程の学生は、選択科目の「法学」「健康科学理論」「健康科学実践」も修得すること(授業科目一覧で確認すること)
	社会系	1	2以上	
	自然・情報系	5	-	
	総合系	1	-	
	外国語系	4	2以上	
	保健体育系	—	2以上	
	小計	13	9以上	
専門教育	専門基礎	28	1以上	
	専門	70	15以上	
	小計	98	16以上	
計		111	25以上	
必要単位数合計		136単位以上(卒業単位 + 保健師受験資格)		

「看護師」 + 「養護教諭一種免許」

総合教育、専門教育ともに教職課程（養護教諭一種免許）で修得が必要な選択科目を授業科目一覧で確認すること

区分		最低単位数		備考
		必修	選択	
総合教育	人間系	2	-	授業科目一覧で、各系の必修科目を確認すること 選択科目は、各系からそれぞれ指定されている単位数分を修得し、更に、総合教育全体から7単位以上修得すること 自然・情報系、外国語系、保健体育系の2**は自然・情報系、外国語系、保健体育系のいずれかから2単位以上選択の意味
	社会系	1	-	
	自然・情報系	5	2**	
	総合系	1	-	
	外国語系	4	2**	
	保健体育系	-	2**	
	小計	13	9以上	
専門教育	専門基礎	28	17以上	
	専門	70	6以上	
	小計	98	23以上	
計		111	32以上	
必要単位数合計		143単位以上(卒業単位 + 教員免許取得)		

「看護師」 + 「保健師」 + 「養護教諭一種免許」

総合教育、専門教育ともに保健師課程及び教職課程（養護教諭一種免許）で修得が必要な選択科目を授業科目一覧で確認すること

区分	最低単位数		備考
	必修	選択	
総合教育	人間系	2	-
	社会系	1	2以上
	自然・情報系	5	-
	総合系	1	-
	外国語系	4	2以上
	保健体育系	—	2以上
	小計	13	9以上
専門教育	専門基礎	28	18以上
	専門	70	21以上
	小計	98	39以上
計		111	48以上
必要単位数合計		159単位以上(卒業単位 + 保健師受験資格 + 教員免許取得)	

8-1-6 進級条件

(1) 2学年から3学年への進級条件

専門基礎と専門の学科必修科目の単位のうち、単位未修得科目が2科目以下であること。ただし、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。

(2) 3学年から4学年への進級条件

実習の必修科目で、単位未修得実習科目が2科目4単位以下であること。

※（履修登録上限単位数）

すべての学年において、1年間に履修登録できる単位数を50単位未満とする。

8-1-7 授業科目一覧（看護学科）

○…免許取得のための必修、—…履修不可

- ※ 1) 必修科目は卒業要件であるため、看護師課程だけでなく、保健師履修コース、養護教諭一種免許課程においても必修となる。
- ※ 2) 看護師以外に、保健師や養護教諭一種の免許を取得する場合、卒業要件の必修以外に「保健師」「養護教諭一種」欄の○印科目をそれぞれ履修すること。
- ※ 3) 本手引きにて卒業要件及び免許取得に必要となる単位数を確認すること。
- ※ 4) 「養護教諭一種免許課程」履修者は、必修科目「教育学」「救急医学」の配当年次が本手引きと異なるため、「教職の手引き・保健師の手引き」で配当年次を必ず確認すること。

小田原保健医療学部 看護学科

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	看護師	保健師	養護教諭一種	備考
			必修	選択					
総合教育系	文学論	1 2 3 4		2	30				
	演劇論	1 2 3 4		1	15				
	心理学	1 2 3 4		2	30				
	哲学	1 2 3 4		2	30				
	コミュニケーション概論	1		2	30	○			
	雑談と傾聴～話す力と聞く力～	1 2 3 4		2	30				
	人間学	1 2 3 4		2	30				
	歴史学	1 2 3 4		2	30				
	倫理学	1 2 3 4		2	30				
	宗教学	1 2 3 4		2	30				
	日本近現代史	1 2 3 4		2	30				
	文化人類学	1 2 3 4		2	30				
	教育学	1 2 3 4		2	30			○	養護教諭一種に必要
	死生学-死を通して生を考える	1 2 3 4		2	30				
	法学	1 2 3 4		2	30		○	○	養護教諭一種、二種に必要
社会系	法と道德・倫理	1 2 3 4		2	30				
	社会学	1 2 3 4		2	30				
	マスメディア論	1 2 3 4		2	30				
	経済学基礎 I (経済原論)	1 2 3 4		2	30				
	経済学基礎 II (日本経済論)	1 2 3 4		2	30				
	国際医療福祉論	1 2 3 4		2	30				
	組織運営管理論	1 2 3 4		2	30				
	海外保健福祉事情 I (講義)	2 3 4		1	30				
	海外保健福祉事情 II (実習)	2 3 4		1	45				
	我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	1		1	30	○			
	ボランティア論	1 2 3 4		2	30				
	医療関連法規	1		2	30				
自然・情報系	統計学	1		2	30	○			
	物理学	1 2 3 4		2	30				
	化学	1 2 3 4		2	30				
	生物学	1 2 3 4		2	30				
	データリテラシー	1		1	30	○			
	データサイエンスとAIの基礎	1		1	30	○			
	医療データサイエンス I (DS基礎)	2 3 4		1	30				
	医療データサイエンス II (AI基礎)	2 3 4		1	30				
	医療必修—医療の倫理とプロ意識・医療情報—	1		1	30	○			
	医学/医療史	1 2 3 4		2	30				
総合系	人間工学	1 2 3 4		2	30				
	大学入門講座—医療人・社会人として成長するために—	1		1	30	○			
	総合講義	1 2 3		1	15				
	医療福祉教養講義	1 2 3 4		1	15				
	メディカルマナー入門	1 2 3 4		2	30				

8-1-7 授業科目一覧（看護学科）

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	看護師	保健師	養護教諭一種	備 考
			必修	選択					
総合教育	英語A-1(講読基礎)	1	1		30	○			
	英語A-2(講読応用)	1	1		30	○			
	英語B-1(聴解・発話基礎)	1	1		30	○			
	英語B-2(聴解・発話応用)	1	1		30	○			
	英語A-3(講読中級1)	2 3 4		1	30				
	英語A-4(講読中級2)	2 3 4		1	30				
	英語C-1(英会話初級)	2 3 4		1	30				
	英語C-2(英会話中級)	2 3 4		1	30				
	資格英語1(Primary)	1 2 3 4		1	30				
	資格英語2(Basic)	1 2 3 4		1	30				
	基礎英文法1(Primary)	1 2 3 4		1	30				
	基礎英文法2(Basic)	1 2 3 4		1	30				
	ドイツ語初級1(基礎)	1 2 3 4		1	30				
	ドイツ語初級2(応用)	1 2 3 4		1	30				
	中国語初級1(基礎)	1 2 3 4		1	30				
	中国語初級2(応用)	1 2 3 4		1	30				
	健康科学理論	1 2 3 4		1	15		○	○	養護教諭一種、二種に必要
	健康科学実践	1 2 3 4		1	30		○	○	養護教諭一種、二種に必要
専門基礎	公衆衛生学	1	2		30	○			
	救急医学	2 3 4		1	15			○	養護教諭一種に必要
	リハビリテーション概論	1	2		30	○			
	関連職種連携論	2	2		30	○			
	関連職種連携ワーク	3	1		30	○			
	関連職種連携実習	4		1	45				
	ケアマネジメント論	2		1	15				
	ケースワーク論	1 2 3 4		1	15				
	医療管理学	1 2 3 4		2	30				
	保健医療福祉制度論	1	2		30	○			
	社会福祉学	1 2 3 4		2	30				
	臨床心理学概論	1	1		30	○			
	医療情報学概論	2 3 4		2	30				
	生体情報処理概論	2 3 4		2	30				
	福祉支援工学概論	1 2 3 4		2	30				
	リスクマネジメント論	1 2 3 4		2	30				
専門基礎	教職入門	1		2	30	—	—	○	養護教諭一種の履修者以外は選択不可
	教育課程論	1 2		2	30	—	—	○	
	道徳教育の理論と実践	2 3		1	15	—	—	○	
	特別活動及び総合的な学習の時間の基礎	2 3		1	15	—	—	○	
	教育方法論	2 3		2	30	—	—	○	
	発達心理学	1 2		1	15	—	—	○	
	特別支援教育概論	1 2		1	15	—	—	○	
	教育相談の基礎と方法	2 3		1	15	—	—	○	
	生徒指導論	2 3		1	15	—	—	○	
	教職実践演習(養護教諭)	4		2	30	—	—	○	
	養護概説	2 3		2	30	—	—	○	
	疫学	2	2		30	○			
	保健統計学 I (基礎)	2	1		15	○			
	保健統計学 II (発展)	3		1	15	—	○	—	保健師履修者以外は選択不可

8-1-7 授業科目一覧（看護学科）

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	看護師	保健師	養護教諭一種	備 考
			必修	選択					
専門教育	専門基礎	解剖学 I (運動器系・内臓学・循環器系)	1	1	30	○			
		解剖学 II (内臓学・神経系)	1	1	30	○			
		生理学 I (植物性機能)	1	1	30	○			
		生理学 II (動物性機能、内分泌)	1	1	30	○			
		解剖学・生理学演習	2	1	30	○			
		栄養学	1	1	30	○			
		微生物学	1	1	30	○			
		病理学	2	1	30	○			
		薬理学	2	1	30	○			
		疾病・治療論 I (呼吸、循環、腎泌尿器系)	2	1	30	○			
		疾病・治療論 II (消化、代謝・内分泌系)	2	1	30	○			
		疾病・治療論 III (免疫、脳神経、運動器、精神系)	2	1	30	○			
		疾病・治療論 IV (感覚器、口腔、皮膚系)	2	1	30	○			
		疾病・治療論 V (リプロダクティブヘルス、小児)	2	1	30	○			
		看護英語 I (基礎)	2	1	30	○			
		看護英語 II (発展)	3		1	30			
専門	看護学原論		1	1	30	○			
	看護コミュニケーション論		1	1	15	○			
	看護援助論 I (看護援助の基本)		1	1	30	○			
	看護援助論 II (生活援助)		1	2	60	○			
	看護援助論 III (診療援助)		2	2	60	○			
	看護過程展開論		1	1	30	○			
	看護過程演習		2	1	30	○			
	フィールド体験実習		1	1	45	○			
	フィジカルアセスメント I (基礎)		1	1	30	○			
	フィジカルアセスメント II (発展)		2	1	15	○			
	基礎看護学実習 I (基礎)		1	1	45	○			
	基礎看護学実習 II (発展)		2	2	90	○			
	リプロダクティブヘルス看護学概論		2	1	15	○			
	リプロダクティブヘルス看護学方法論		3	2	60	○			
	リプロダクティブヘルス看護学演習		3	1	30	○			
	リプロダクティブヘルス看護学実習		3	2	90	○			
	小児看護学概論		2	1	15	○			
	小児看護学方法論		3	2	60	○			
	小児看護学演習		3	1	30	○			
	小児看護学実習		3	2	90	○			
	成人看護学概論		2	1	15	○			
	成人看護学方法論 I (急性期、周手術期看護)		2	2	60	○			
	成人看護学方法論 II (慢性期看護)		3	2	60	○			
	成人看護学方法論 III (がん看護、終末期看護)		3	1	30	○			
	老年看護学概論		2	1	15	○			
	老年看護学方法論		3	2	60	○			
	老年看護学演習		3	1	30	○			
	成人・老年看護学実習 I (急性期看護)		3	2	90	○			
	成人・老年看護学実習 II (慢性期看護)		3	2	90	○			
	成人・老年看護学実習 III (高齢者の理解)		3	1	45	○			
	成人・老年看護学実習 IV (健康障害のある高齢者の看護)		3	2	90	○			
	成人・老年看護学実習 V (認知症を有する高齢者の看護)		4	1	45	○			

8-1-7 授業科目一覧（看護学科）

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	看護師	保健師	養護教諭一種	備 考
			必修	選択					
専門教育	精神看護学概論	2	1		15	○			
	精神看護学方法論	2	2		60	○			
	精神看護学演習	3	1		30	○			
	精神看護学実習	3	2		90	○			
	地域・在宅看護学概論	2	1		15	○			
	地域・在宅看護学方法論 I (地域生活の理解)	2	2		60	○			
	地域・在宅看護学方法論 II (地域療養の支援)	3	2		60	○			
	地域・在宅看護学演習	4	1		30	○			
	地域・在宅看護学実習	4	2		90	○			
	国際看護論	4		1	15				
	災害看護論	3	1		15	○			
	家族看護論	2		1	15				
	パリアティブケア	3 4		1	15				
	統合看護演習	4		1	30				
	統合技術演習	4		1	30				
	看護研究法概説	3	1		15	○			
	看護研究	4	2		60	○			
	看護倫理学	2 3 4		1	15				
	看護管理論	3	1		15	○			
	看護マネジメント実習	4	1		45	○			
	統合看護実習	4	2		90	○			
	公衆衛生看護学実習 I (健康支援)	3		2	90	—	○	—	保健師履修者以外は選択不可
	公衆衛生看護学実習 II (活動の展開)	4		2	90	—	○	—	
	公衆衛生看護学実習 III (管理)	4		1	45	—	○	—	
	健康危機管理論	4		1	15	—	○	—	
	保健医療福祉行政論	4		2	30	—	○	—	
	公衆衛生看護学概論	1	2		30	○			保健師履修者以外は選択不可
	健康教育・保健指導論	2	1		30	○			
	公衆衛生看護学対象別活動論	3		2	30	—	○	—	
	ヘルスマセメント論	3		1	30	—		○	
	公衆衛生看護学方法論 I (基礎)	3		1	30	—	○	—	
	公衆衛生看護学方法論 II (発展)	4		1	30	—	○	—	保健師履修者以外は選択不可
	産業における看護活動	4		1	15	—	○	—	
	学校における看護活動	3		1	15	—	○	—	
	公衆衛生看護管理論	4		1	15	—	○	—	
	養護実習	4		5	150	—	—	○	養護教諭一種の履修者以外は選択不可
	学校看護学実習	3 4		1	45	—	—	—	

8-2 小田原保健医療学部 理学療法学科

8-2-1 教育研究上の目的

学部の教育研究上の目的

小田原保健医療学部は、看護学、理学療法学、作業療法学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれ十分な知識と技能を有し、保健医療の実践を担うことのできる応用能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成することを目的とする。

理学療法学科の教育研究上の目的

理学療法学科は、人を深く思いやるこころ「情意」、さまざまな障害に対処できる豊富な「知識」、障害を克服できるよう導く高い「技術」を育み、バランス感覚にも優れた理学療法士の育成を目的とする。

8-2-2 アドミッションポリシー

1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、理学療法士として、豊かな心、コミュニケーション能力、新しい知識の追求に向けた関心や意欲を持ち備え、日々進化する保健・医療・福祉分野における高度化・専門化及び国際化に対応し、学びを深めるための客観的・科学的な分析・判断力を養うことが期待できる人

2. 理学療法学科の入学者に求める要件

1) 知識・技能

高等学校時代の教科・科目等に相応した基礎知識と技能にあたる語学系科目の修得を通して身につけた読解力、文章力、コミュニケーション能力、また、理数系科目の修得を通して身につけた論理的な思考力、科学的な理解力を有していること。

2) 思考力・判断力・表現力

保健・医療・福祉分野における新しい知識を学ぶための積極的な意欲を有し、継続的な努力を惜しまず、他人を思いやる寛容性及びコミュニケーション能力、学修で得た知識・技能をもとにした客観的な思考力及び理解力、筋道を立てて科学的に考えることができる分析力及び判断力を有していること。

3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

本学の基本理念及び教育理念を十分理解し、理学療法士として「共に生きる社会」の実現に寄与すべく、地域とのつながりを大切に考えることができ、保健・医療・福祉分野の発展に貢献したいという強い意志を持ち、積極的に自ら研鑽し、また相手の立場に立つて物事を考え多職種と協調的に連携を図る態度を身につけていること。

8-2-3 ディプロマポリシー

理学療法学科では所定の単位を修得し、次に掲げる学科の特性を考慮した学科ディプロマ・ポリシーを達成した学生に学位を授与する。

DP1：理学療法士を目指す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務と倫理観を身につけている。

DP2：理学療法士を目指す者として、理学療法を提供するために必要な基礎的な知識を身につけている。

DP3：理学療法士を目指す者として、基礎的な学力を養い、多様性を受け入れ、適切なマナーと円滑なコミュニケーションによって豊かな対人関係を築き、他者への共感的態度を身につけている。

DP4：理学療法士を目指す者として、備えた基礎的知識を理学療法場面に当てはめて客観的・科学的に分析でき、基礎的な理学療法技術を身につけている。

DP5：理学療法士を目指す者として、様々な状況において備えた高度な専門的知識や技術力を統合して、的確な判断に基づく問題解決能力を身につけている。

DP6：理学療法士を目指す者として、効果的な多職種連携のために、自職種および他職種を理解し、チームの一員としての役割が果たせる。

DP7：理学療法士を目指す者として、自身の更なる発展のため、生涯学習を行うことの重要性を認識し、理学療法分野における新しい知識を追求する方法（研究活動）を身につけている。

8-2-4 カリキュラムポリシー

理学療法学科では教育目標を学生が達成できるよう、次の方針に則り教育課程を編成・実施する。

CP1：理学療法や関連領域の基礎的・専門的な知識・技術を有し、他文化・異文化を問わない態度で人類の健康を理解できる理学療法士を育成するための科目を設定する。

CP2：獲得した知識・技術・態度をもとに問題点を的確に把握し、病態に応じた適切な理学療法評価・治療を提供できる理学療法士を育成するための科目を設定する。

CP3：理学療法の過程で得た情報を定量的・論理的に分析し、適切なコミュニケーション手段を用いて他者と共有し、チームを構築して問題解決にあたることのできる理学療法士を育成するための科目を設定する。

CP4：常に向上心を持って自己研鑽に努め、修得した知識や技術を関連職種を含めたチーム内で共有しながらリーダーシップを発揮し、専門職業人としての高い倫理観を有した、社会から求められる理学療法士を育成するための科目を設定する。

(教育目標)

<1年次 (SB0s1) >

CP1：保健医療福祉に関する基本的知識や異文化に関する知識を修得する。

CP2：保健医療福祉に関する基本的知識を修得し、理学療法とのかかわりを理解する。

CP3：理学療法に必要な論理的思考を養い、コミュニケーションスキルを身につける。

CP4：多様な学問領域に関心を持ち、主体的な学びを通して、使命感、倫理観、責任感、思いやりの心などの豊かな人間性を獲得する。

<2年次 (SB0s2) >

CP1：保健医療福祉や異文化に関する発展的な基礎知識を修得する。

CP2：病態に応じた理学療法検査手技を正確に実施できる。

CP3：データと情報を収集し、適切に管理できる。

CP4：他者と協働し、チームの一員として貢献できる。

<3年次 (SB0s3) >

CP1：理学療法専門分野および関連領域における基礎的な知識を修得する。

CP2：病態に応じた理学療法評価を正確に実施し、一連の治療プログラムを想定できる。

CP3：収集した情報を基に、障害像の統合と解釈ができる。

CP4：理学療法の発展的な基礎知識を修得し、専門職業人としての倫理観を養い、関連する職種間との連携に貢献できる。

<4年次 (SB0s4) >

CP1：理学療法専門分野および関連領域における知識を修得し、それらを臨床応用できる能力を獲得する。

CP2：適切な評価を選択・実施できる。また、評価結果から医学的根拠に基づいた一連の治療プログラムを立案し、治療の実施および再評価することができる。

CP3：臨床的な疑問点を探究し、その解決を図るための研究デザインや研究チームを構築することができる。また、計画に基づいた研究の実施および結果の臨床応用について検討することができる。

CP4：理学療法における応用的・発展的な知識を修得し、関連職種へ情報提供および共有することができる。

理学療法学科DP-教育目標カリキュラムマップ(2025年度入学生版)

黒字:必修科目 青字:選択科目

		ディプロマ・ポリシー(DP)							
各年次の教育目標(到達目標・SBOs)	1年次	【DP1】理学療法士を目指す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務・倫理観を身につけている。	【DP2】理学療法士を目指す者として、理学療法を提供するために必要な基礎的な知識を身につけている。	【DP3】理学療法士を目指す者として、基礎的な学力を養い、多様性を受け入れ、適切なマナーと円滑なコミュニケーションによって豊かな対人関係を築き、他者への共感的態度を身につけている。	【DP4】理学療法士を目指す者として、備えた基礎的知識を理学療法場面に当てはめて客観的・科学的に分析でき、基礎的な理学療法技術を身につけている。	【DP5】理学療法士を目指す者として、様々な状況において備えた高度な専門的知識や技術力を統合して、的確な判断に基づく問題解決能力を身につけている。	【DP6】理学療法士を目指す者として、効果的な多職種連携のために、自職種および他職種を理解し、チームの一員としての役割が果たせる。	【DP7】理学療法士を目指す者として、自身の更なる発展のため、生涯学習を行うことの重要性を認識し、理学療法分野における新しい知識を追求する方法(研究活動)を身につけている。	
		【SBOs1/CP1】保健医療福祉に関する基本的知識や異文化に関する知識を修得する	【DP1/SBOs1/CP1】大学入門講座一医療人・社会人として成長するために、我が国の社会福祉・医療保障政策の知識、英語A-1(講読基礎)、英語A-2(講読応用)、英語B-1(聴解・発話基礎)、英語B-2(聴解・発話応用) 文学論、演劇論、哲学、歴史学、宗教学、日本近現代史、文化人類学、法学、法と道徳・倫理、社会学、マスメディア論、経済学基礎 I(経済原論)、経済学基礎 II(日本経済論)、国際医療福祉論、総合講義、資格英語2(Primary)、資格英語2(Basic)、基礎英文法(P)、基礎英文法2(Basic)、ドイツ語初級1(基礎)、ドイツ語初級2(応用)、中国語初級1(基礎)、中国語初級2(応用)、保健医療福祉制度論、社会福祉学、日本語 I-A(作文)、日本語 I-B(文法・語彙)、日本語 II-A(作文)、日本語 II-B(文法・語彙)、日本語 II-C(発表討論)、日本語 II-D(専門日本語)、日本語 III-A(作文)、日本語 III-B(文法・語彙)、日本語 III-C(発表討論)、日本語 III-D(専門日本語)※日本語は留学生のみ	【DP2/SBOs1/CP1】医療必修一医療の倫理とプロ意識・医療情報一、救急医学、解剖学 I(運動器系、内臓器系)、解剖学 II(内臓器系、神経系)、解剖学実習 I(肉眼)、解剖学実習 II(組織)、生理学 I(植物性機能)、生理学 II(動物性機能)、生理学実習、運動学 I(基礎)、運動学 II(応用)、運動生理解剖学論理学、倫理学、死生学～死を通して生を考える、物理医学、化学、生物学、医療福祉教養講義、健康科学理論、健康科学実践、公衆衛生学、福祉支援工学概論、ケースワーカ論、バイオメカニクス、運動心理学、スポーツ医科学、スポーツ心理学	【DP3/SBOs1/CP1】人間学、教育学、組織運営管理論、ボランティア論	【DP4/SBOs1/CP1】	【DP5/SBOs1/CP1】	【DP6/SBOs1/CP1】医療管理学、理学療法国際事情	【DP7/SBOs1/CP1】データリテラシー、統計学、データサイエンスとAIの基礎
		【SBOs1/CP2】保健医療福祉に関する基本的知識を修得し、理学療法とのかかわりを理解する	【DP1/SBOs1/CP2】理学療法概論	【DP2/SBOs1/CP2】リハビリテーション概論 医学/医療史・人間工学、理学療法用語論	【DP3/SBOs1/CP2】	【DP4/SBOs1/CP2】PTスキル I 演習(課題発表・PBL) パルベーション(運動機能)	【DP5/SBOs1/CP2】物理療法学 I(基礎)	【DP6/SBOs1/CP2】	【DP7/SBOs1/CP2】
		【SBOs1/CP3】理学療法に必要な論理的思考を養い、コミュニケーションスキルを身につける	【DP1/SBOs1/CP3】	【DP2/SBOs1/CP3】	【DP3/SBOs1/CP3】コミュニケーション概論、雑談と傾聴～話す力と聞く力～、教育方法論、メディカルマナー入門	【DP4/SBOs1/CP3】	【DP5/SBOs1/CP3】	【DP6/SBOs1/CP3】	【DP7/SBOs1/CP3】
		【SBOs1/CP4】多様な学問領域に関心を持ち、主体的な学びを通して、使命感、倫理観、責任感、思いやりの心などの豊かな人間性を獲得する	【DP1/SBOs1/CP4】	【DP2/SBOs1/CP4】医療関連法規	【DP3/SBOs1/CP4】	【DP4/SBOs1/CP4】	【DP5/SBOs1/CP4】	【DP6/SBOs1/CP4】基礎実習	【DP7/SBOs1/CP4】
		【SBOs2/CP1】保健医療福祉や異文化に関する発展的な基礎知識を修得する	【DP1/SBOs2/CP1】英語A-3(講読中級)、英語A-4(講読中級)、英語C-1(英会話初級)、英語C-2(英会話中級)	【DP2/SBOs2/CP1】臨床心理学概論、病理学、臨床医学概論、内科学 I(基礎)、内科学 II(臨床)、神経学 I(基礎)、神経学 II(臨床)、整形外科学 I(基礎)、整形外科学 II(臨床)、精神医学 I(総論・各論)、運動学実習 I(基礎)、運動学実習 II(応用)、人間発達学、小児科学、臨床薬理学概論、運動解剖学 精神医学 II(各論)、老年学、神経心理学概論、スポーツ傷害学、外科学、脳神経外科学、栄養学、ヘルスプロモーション論、理学療法教育学、理学療法特論 II(応用)	【DP3/SBOs2/CP1】	【DP4/SBOs2/CP1】	【DP5/SBOs2/CP1】	【DP6/SBOs2/CP1】レクリエーション概論	【DP7/SBOs2/CP1】疫学・保健医療統計学、医療データサイエンス I(DS基礎)、医療データサイエンス II(AI基礎)
		【SBOs2/CP2】病態に応じた理学療法検査手技を正確に実施できる	【DP1/SBOs2/CP2】	【DP2/SBOs2/CP2】	【DP3/SBOs2/CP2】	【DP4/SBOs2/CP2】PTスキル II 演習(課題学習・口頭試問)、理学療法評価学、理学療法診断学 I(基礎)、理学療法診断学 II(疾患編)、理学療法診断学 III(神経・画像評価学を含む)、理学療法計測法 理学療法診断学 IV(電気診断学)	【DP5/SBOs2/CP2】物理療法学 II(応用)、運動療法学総論 動作分析学、運動負荷学、臨床動作分析学、クリニックリーディング、高次脳機能障害学、癌のリハビリテーション、呼吸管理、老人理学療法学、急性期理学療法学、産科理学療法学、精神科理学療法学、理学療法治療学演習 I(神経筋促通治療学)、理学療法治療学演習 II(神経発達学の治療学)、理学療法治療学演習 III(マニュアルセラピー(関節)、理学療法治療学演習 IV(マニュアルセラピー(脊柱)、障害者スポーツ概論	【DP6/SBOs2/CP2】	【DP7/SBOs2/CP2】
		【SBOs2/CP3】データと情報を収集し、適切に管理できる	【DP1/SBOs2/CP3】	【DP2/SBOs2/CP3】	【DP3/SBOs2/CP3】	【DP4/SBOs2/CP3】	【DP5/SBOs2/CP3】	【DP6/SBOs2/CP3】理学療法管理学 医療情報学概論、生体情報処理概論	【DP7/SBOs2/CP3】理学療法研究法、ジャーナルリーディング
		【SBOs2/CP4】他者と協働し、チームの一員として貢献できる	【DP1/SBOs2/CP4】	【DP2/SBOs2/CP4】	【DP3/SBOs2/CP4】ケアマネジメント論 海外保健福祉事情 I(講義) 海外保健福祉事情 II(実習)	【DP4/SBOs2/CP4】	【DP5/SBOs2/CP4】	【DP6/SBOs2/CP4】関連職種連携、検査実習	【DP7/SBOs2/CP4】
		【SBOs3/CP1】理学療法専門分野および関連領域における基礎的な知識を修得する	【DP1/SBOs3/CP1】	【DP2/SBOs3/CP1】病態運動学、リハビリテーション医学、義肢学、装具学	【DP3/SBOs3/CP1】	【DP4/SBOs3/CP1】	【DP5/SBOs3/CP1】	【DP6/SBOs3/CP1】	【DP7/SBOs3/CP1】
		【SBOs3/CP2】病態に応じた理学療法評価を正確に実施し、一連の治療プログラムを想定できる	【DP1/SBOs3/CP2】	【DP2/SBOs3/CP2】	【DP3/SBOs3/CP2】	【DP4/SBOs3/CP2】PTスキル III 演習(課題学習)	【DP5/SBOs3/CP2】生活技術学、生活環境学、理学療法治療総論、運動系理学療法学 I(基礎)、運動系理学療法学 II(応用)、神経系理学療法学 I(脳血管)、神経系理学療法学 II(神経筋)、小児理学療法学、循環器系理学療法学、呼吸器系理学療法学、代謝系理学療法学	【DP6/SBOs3/CP2】リスクマネジメント論	【DP7/SBOs3/CP2】
		【SBOs3/CP3】収集した情報を基に、障害像の統合と解釈ができる	【DP1/SBOs3/CP3】	【DP2/SBOs3/CP3】	【DP3/SBOs3/CP3】	【DP4/SBOs3/CP3】PTスキル IV 演習(口頭試問・OSCE・CBT)	【DP5/SBOs3/CP3】	【DP6/SBOs3/CP3】	【DP7/SBOs3/CP3】
		【SBOs3/CP4】理学療法の発展的な基礎知識を修得し、専門職業人としての倫理観を養い、関連する職種間との連携に貢献できる	【DP1/SBOs3/CP4】	【DP2/SBOs3/CP4】	【DP3/SBOs3/CP4】	【DP4/SBOs3/CP4】	【DP5/SBOs3/CP4】	【DP6/SBOs3/CP4】関連職種連携ワーク、地域理学療法学演習(在宅・地域)、地域リハビリテーション実習、評価実習	【DP7/SBOs3/CP4】
		【SBOs4/CP1】理学療法専門分野および関連領域における知識を修得し、それらを臨床応用できる能力を獲得する	【DP1/SBOs4/CP1】	【DP2/SBOs4/CP1】理学療法特論 I(基礎)	【DP3/SBOs4/CP1】	【DP4/SBOs4/CP1】	【DP5/SBOs4/CP1】	【DP6/SBOs4/CP1】	【DP7/SBOs4/CP1】
		【SBOs4/CP2】適切な評価と選択・実施できる。また、評価結果から医学的根拠に基づいた一連の治療プログラムを立案し、治療の実施および再評価することができる	【DP1/SBOs4/CP2】	【DP2/SBOs4/CP2】	【DP3/SBOs4/CP2】	【DP4/SBOs4/CP2】	【DP5/SBOs4/CP2】	【DP6/SBOs4/CP2】	【DP7/SBOs4/CP2】
		【SBOs4/CP3】臨床的な疑問点を探求し、その解決を図るために研究デザインや研究チームを構築することができる。また、計画に基づいた研究の実施および結果の臨床応用について検討することができる	【DP1/SBOs4/CP3】	【DP2/SBOs4/CP3】	【DP3/SBOs4/CP3】	【DP4/SBOs4/CP3】	【DP5/SBOs4/CP3】	【DP6/SBOs4/CP3】	【DP7/SBOs4/CP3】理学療法統計法、卒業研究
		【SBOs4/CP4】理学療法における応用的・発展的な知識を修得し、関連職種へ情報提供および共有することができる	【DP1/SBOs4/CP4】	【DP2/SBOs4/CP4】	【DP3/SBOs4/CP4】	【DP4/SBOs4/CP4】	【DP5/SBOs4/CP4】総合臨床実習 関連職種連携実習	【DP6/SBOs4/CP4】	【DP7/SBOs4/CP4】

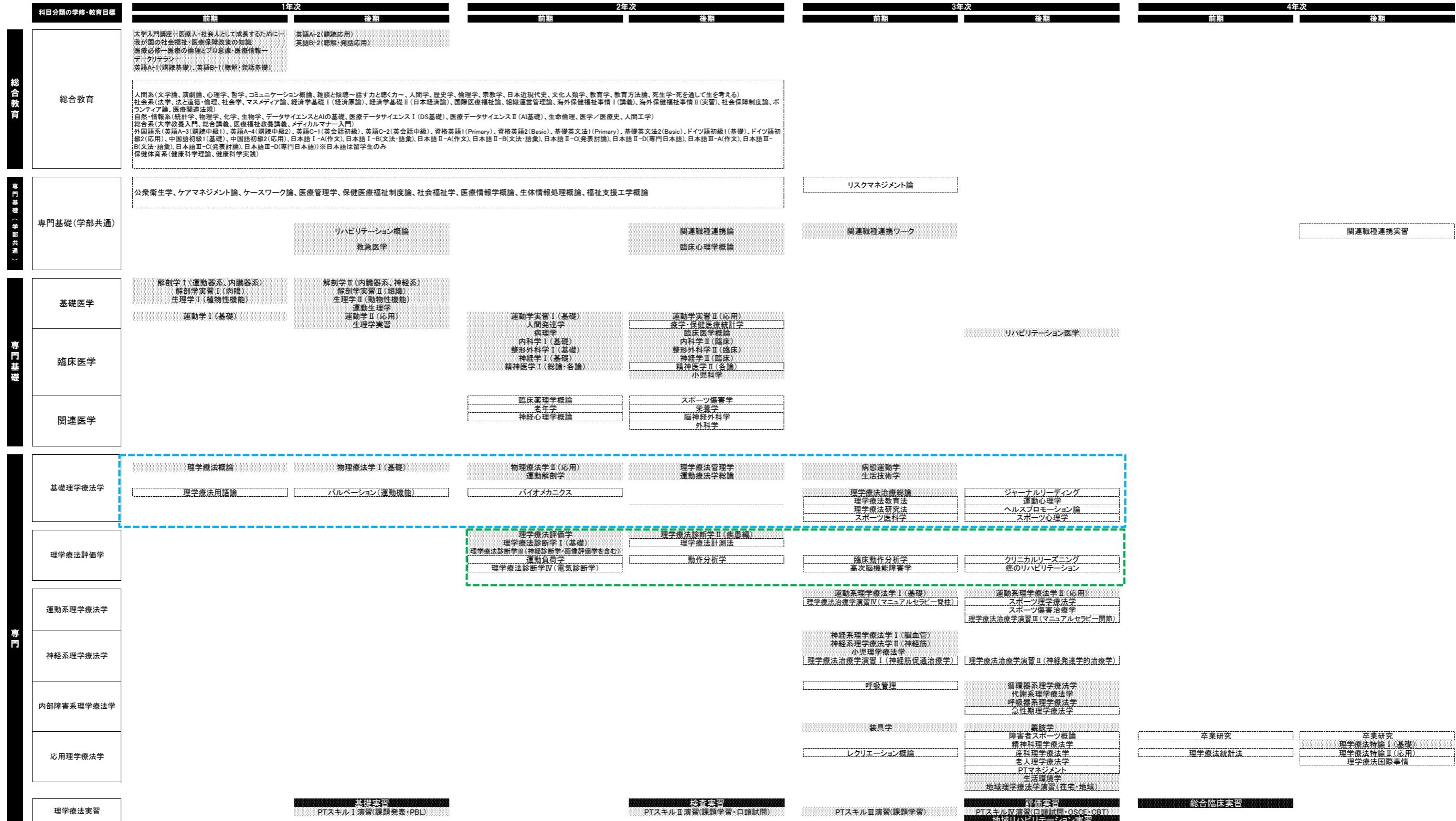
小田原保健医療学部理学療法学科 履修系統図(2025年度入学生)

カリキュラムポリシー

CP1理学療法や関連領域の基礎的・専門的な知識・技術を有し、他文化・異文化を問わない態度で人類の健康を理解できる理学療法士を育成するための科目を設定する。
 CP2獲得した知識・技術・態度をもとに問題点を的確に把握し、病態に応じた適切な理学療法評価・治療を提供できる理学療法士を育成するための科目を設定する。
 CP3:理学療法の過程で得た情報を定量的・論理的に分析し、適切なコミュニケーション手段を用いて他者と共有し、チームを構築して問題解決にあたることのできる理学療法士を育成するための科目を設定する。
 CP4:常に向上心を持って自己研鑽に努め、修得した知識や技術を関連職種を含めたチーム内で共有しながらリーダーシップを発揮し、専門職業人としての高い倫理観を有した、社会から求められる理学療法士を育成するための科目を設定する。

ディプロマポリシー

DP1:理学療法士を目指す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務と倫理観を身につけている。
 DP2:理学療法士を目指す者として、理学療法を提供するために必要な基礎的な知識を身につけている。
 DP3:理学療法士を目指す者として、基礎的な学力を養い、多様性を受け入れ、適切なマナーと円滑なコミュニケーションによって豊かな対人関係を築き、他者への共感的態度を身につけている。
 DP4:理学療法士を目指す者として、備えた基礎的知識を理学療法場面に当てはめて客観的・科学的に分析でき、基礎的な理学療法技術を身につけている。
 DP5:理学療法士を目指す者として、様々な状況において備えた高度な専門的知識や技術力を統合して、的確な判断に基づく問題解決能力を身につけている。
 DP6:理学療法士を目指す者として、効果的な多職種連携のために、自職種および他職種を理解し、チームの一員としての役割が果たせる。
 DP7:理学療法士を目指す者として、自身の更なる発展のため、生涯学習を行うことの重要性を認識し、理学療法分野における新しい知識を追求する方法(研究活動)を身につけている。



: 必修科目

: 臨床実習

: 選択科目

8-2-5 卒業要件

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得しなければなりません。なお、必修科目については、「8-2-6 授業科目一覧」を参照してください。

- (1) 卒業に必要な単位数【理学療法学科 2025（令和7）年度入学生】

卒業要件(理学療法学科)

区分	最低単位数		備考
	必修	選択	
総合教育	人間系	-	4以上
	社会系	1	2以上
	自然・情報系	2	2以上
	総合系	1	—
	外国語系	4	2以上
	保健体育系	—	—
	小計	8	14以上
専門教育	専門基礎	34	12以上
	専門	58	
	小計	92	12以上
計		100	26以上
卒業単位数合計		126単位以上	

8-2-6 進級条件

- (1) 2学年から3学年への進級条件

2学年までの全必修科目のうち単位未修得科目が2科目以下であること。

- (2) 3学年から4学年への進級条件

3学年までの必修科目の単位をすべて修得していること。

※ (履修登録上限単位数)

すべての学年において、1年間に履修登録できる単位数を50単位未満とする。

8-2-7 授業科目一覧（理学療法学科）

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
人間系	文学論	1 2 3 4		2	30	卒業要件にて、総合教育の修得単位を確認してください。
	演劇論	1 2 3 4		1	15	
	心理学	1 2 3 4		2	30	
	哲学	1 2 3 4		2	30	
	コミュニケーション概論	1 2 3 4		2	30	
	雑談と傾聴～話す力と聞く力～	1 2 3 4		2	30	
	人間学	1 2 3 4		2	30	
	歴史学	1 2 3 4		2	30	
	倫理学	1 2 3 4		2	30	
	宗教学	1 2 3 4		2	30	
	日本近現代史	1 2 3 4		2	30	
	文化人類学	1 2 3 4		2	30	
	教育学	1 2 3 4		2	30	
	教育方法論	1 2 3 4		2	30	
	死生学-死を通して生を考える	1 2 3 4		2	30	
	法学	1 2 3 4		2	30	
	法と道徳・倫理	1 2 3 4		2	30	
社会系	社会学	1 2 3 4		2	30	◆小田原保健医療学部 理学療法学科
	マスマディア論	1 2 3 4		2	30	
	経済学基礎Ⅰ(経済原論)	1 2 3 4		2	30	
	経済学基礎Ⅱ(日本経済論)	1 2 3 4		2	30	
	国際医療福祉論	1 2 3 4		2	30	
	組織運営管理論	1 2 3 4		2	30	
	海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2 3 4		1	30	
	海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2 3 4		1	45	
	我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	1		1	30	
	ボランティア論	1 2 3 4		2	30	
	医療関連法規	1 2 3 4		2	30	
総合教育	統計学	1 2 3 4		2	30	
	物理学	1 2 3 4		2	30	
	化学	1 2 3 4		2	30	
	生物学	1 2 3 4		2	30	
	データリテラシー	1		1	30	
	データサイエンスとAIの基礎	1 2 3		1	30	
	医療データサイエンスⅠ(DS基礎)	2 3 4		1	30	
	医療データサイエンスⅡ(AI基礎)	2 3 4		1	30	
	医療必修—医療の倫理とプロ意識・医療情報—	1		1	30	
	医学/医療史	1 2 3 4		2	30	
総合系	人間工学	1 2 3 4		2	30	
	大学入門講座—医療人・社会人として成長するために—	1		1	30	
	総合講義	1 2 3		1	15	
	医療福祉教養講義	1 2 3 4		1	15	
外国語系	メディカルマナー入門	1 2 3 4		2	30	
	英語A-1(講読基礎)	1		1	30	
	英語A-2(講読応用)	1		1	30	
	英語B-1(聴解・発話基礎)	1		1	30	
	英語B-2(聴解・発話応用)	1		1	30	
	英語A-3(講読中級1)	2 3 4		1	30	
	英語A-4(講読中級2)	2 3 4		1	30	
	英語C-1(英会話初級)	2 3 4		1	30	
	英語C-2(英会話中級)	2 3 4		1	30	
	資格英語1(Primary)	1 2 3 4		1	30	
	資格英語2(Basic)	1 2 3 4		1	30	
	基礎英文法1(Primary)	1 2 3 4		1	30	
	基礎英文法2(Basic)	1 2 3 4		1	30	
	ドイツ語初級1(基礎)	1 2 3 4		1	30	
	ドイツ語初級2(応用)	1 2 3 4		1	30	
体育系	中国語初級1(基礎)	1 2 3 4		1	30	
	中国語初級2(応用)	1 2 3 4		1	30	
保健系	健康科学理論	1 2 3 4		1	15	
	健康科学実践	1 2 3 4		1	30	

8-2-7 授業科目一覧 (理学療法学科)

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
専門教育 専門基礎 (学部共通)	公衆衛生学	1 2 3 4		2	30	卒業要件にて、専門基礎の修得単位を確認してください。
	救急医学	1		1	15	
	リハビリテーション概論	1		2	30	
	関連職種連携論		2	2	30	
	関連職種連携ワーク		3	1	30	
	関連職種連携実習			4	1 45	
	ケアマネジメント論	2 3 4		1	15	
	ケースワーク論	1 2 3 4		1	15	
	医療管理学	1 2 3 4		2	30	
	保健医療福祉制度論	1 2 3 4		2	30	
	社会福祉学	1 2 3 4		2	30	
	臨床心理学概論		2	2	30	
	医療情報学概論		2 3 4		2 30	
	生体情報処理概論		2 3 4		2 30	
	福祉支援工学概論	1 2 3 4		2	30	
	リスクマネジメント論		3 4		2 30	
	疫学・保健医療統計学		2		2 30	
専門基礎	解剖学 I (運動器系、内臓器系)	1		1	30	卒業要件にて、専門の修得単位を確認してください。
	解剖学 II (内臓器系、神経系)	1		1	30	
	解剖学実習 I (肉眼)	1		1	45	
	解剖学実習 II (組織)	1		1	45	
	生理学 I (植物性機能)	1		1	30	
	生理学 II (動物性機能)	1		1	30	
	生理学実習	1		1	45	
	運動学 I (基礎)	1		1	30	
	運動学 II (応用)	1		1	30	
	運動生理学	1		2	30	
	病理学		2	1	30	
	臨床医学概論		2	1	30	
	内科学 I (基礎)		2	1	30	
	内科学 II (臨床)		2	1	30	
	神経学 I (基礎)		2	1	30	
	神経学 II (臨床)		2	1	30	
	整形外科学 I (基礎)		2	1	30	
	整形外科学 II (臨床)		2	1	30	
	精神医学 I (総論・各論)		2	1	30	
	精神医学 II (各論)		2		1 30	
	運動学実習 I (基礎)		2	1	45	
	運動学実習 II (応用)		2	1	45	
	人間発達学		2	1	30	
	リハビリテーション医学		3	1	30	
	小児科学		2	1	30	
	老年学	2 3 4		1	30	
専門	神経心理学概論	2 3 4		2	30	卒業要件にて、専門の修得単位を確認してください。
	臨床薬理学概論		2	1	15	
	スポーツ傷害学	2 3 4		1	15	
	外科学	2 3 4		1	15	
	脳神経外科学	2 3 4		1	30	
	栄養学	2 3 4		1	15	
	パルペーション(運動機能)	1		1	15	
	理学療法概論	1		2	30	
	PTスキル I 演習(課題発表・PBL)	1		1	30	
	PTスキル II 演習(課題学習・口頭試問)		2	1	30	
	PTスキル III 演習(課題学習)		3	1	30	
	PTスキル IV 演習(口頭試問・OSCE・CBT)		3	2	60	
	病態運動学		3	2	30	
	運動解剖学	2		2	30	
	理学療法用語論	① 2 3 4		1	15	
	バイオメカニクス	1 ② 3 4		1	15	
	運動心理学	1 2 ③ 4		1	15	

8-2-7 授業科目一覧（理学療法学科）

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
専門教育	専門	スポーツ心理学	1	2 (3) 4	1	15
		スポーツ医科学	1	2 (3) 4	1	15
		理学療法評価学	2		2	30
		理学療法診断学 I (基礎)	2		1	30
		理学療法診断学 II (疾患編)	2		1	30
		理学療法診断学 III (神経・画像評価学を含む)	2		1	15
		理学療法診断学 IV (電気診断学)	(2)	3 4	1	15
		動作分析学	(2)	3 4	1	15
		臨床動作分析学	2	(3) 4	1	15
		運動負荷学	(2)	3 4	1	15
		理学療法計測法	2		1	15
		クリニカルリーディング	2	(3) 4	1	15
		高次脳機能障害学	2	(3) 4	1	15
		物理療法学 I (基礎)	1		1	30
		物理療法学 II (応用)	2		1	30
		運動療法学総論	2		1	30
		癌のリハビリテーション	2	(3)	1	15
		呼吸管理	2	(3)	1	15
		生活技術学	3		1	30
		生活環境学	3		1	30
		義肢学	3		1	30
		装具学	3		1	30
		理学療法治療総論	3		1	15
		運動系理学療法学 I (基礎)	3		1	30
		運動系理学療法学 II (応用)	3		1	30
		神経系理学療法学 I (脳血管)	3		1	30
		神経系理学療法学 II (神経筋)	3		1	30
		小児理学療法学	3		1	30
		循環器系理学療法学	3		1	15
		呼吸器系理学療法学	3		1	15
		代謝系理学療法学	3		1	15
		地域理学療法学演習(在宅・地域)	3		1	30
		老人理学療法学	2 (3) 4		1	15
		急性期理学療法学	2 (3) 4		1	15
		スポーツ理学療法学	2 (3) 4		1	15
		スポーツ傷害治療学	2 (3) 4		1	15
		ヘルスプロモーション論	2 (3) 4		1	15
		産科理学療法学	2 (3) 4		1	15
		精神科理学療法学	2 (3) 4		1	15
		理学療法治療学演習 I (神経筋促通治療学)	2 (3) 4		1	15
		理学療法治療学演習 II (神経発達学の治療学)	2 (3) 4		1	15
		理学療法治療学演習 III (マニュアルセラピー関節)	2 (3) 4		1	15
		理学療法治療学演習 IV (マニュアルセラピー脊柱)	2 (3) 4		1	15
		基礎実習	1		1	45
		検査実習	2		2	90
		地域リハビリテーション実習	3 4	1		45
		評価実習	3	4		180
		総合臨床実習		4	12	540
		理学療法特論 I (基礎)		4	2	30
		理学療法特論 II (応用)	2	3 (4)	2	30
		理学療法研究法	2	(3) 4	1	15
		理学療法教育学	2	(3) 4	1	15
		理学療法統計法		4	1	15
		理学療法管理学	2		2	30
		障害者スポーツ概論	2 (3) 4		1	15
		ジャーナルリーディング	2 (3) 4		1	15
		レクリエーション概論	2 (3) 4		1	15
		理学療法国際事情	1 2 3 (4)		1	15
		卒業研究		4	4	180

「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」教育内容において
2020年度入学生から新たに含まれる内容と本学対応科目

理学療法学科

指定規則教育内容		対応する科目				
		授業科目の名称	配当年次	必修	選択	時間
専門基礎分野	程疾の病促と進障害の成り立ち及び回復過程	栄養	リハビリテーション医学	3	1	30
		薬理	臨床薬理学概論	2	1	15
		医用画像	リハビリテーション医学	3	1	30
		救急救命	救急医学	1	1	15
		予防	リハビリテーション医学	3	1	30
	テ保健医療福祉理念とリハビリ	自立支援	リハビリテーション概論	1	2	30
		就労支援	リハビリテーション概論	1	2	30
		地域包括ケアシステム	リハビリテーション概論	1	2	30
		多職種連携	関連職種連携ワーク	3	1	30
専門分野	理学療法管理学	職場管理	理学療法管理学	2	2	30
		理学療法教育	理学療法教育学	2 3 4	1	15
		職業倫理	理学療法管理学	2	2	30
	学法理評価学 価値	医用画像評価	理学療法診断学Ⅲ(神経・画像評価学を含む)	2	1	15
	学法理治療学 療法	喀痰等の吸引	呼吸器系理学療法学	3	1	15
	臨習床実	通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習(1単位以上)	地域リハビリテーション実習	3 4	1	45

8-3 小田原保健医療学部 作業療法学科

8-3-1 教育研究上の目的

学部の教育研究上の目的

小田原保健医療学部は、看護学、理学療法学、作業療法学の各分野について、理論及び応用の研究を行うとともに、それぞれ十分な知識と技能を有し、保健医療の実践を担うことのできる応用能力及び豊かな人間性を備えた人材を育成することを目的とする。

作業療法学科の教育研究上の目的

作業療法学科は、高度で幅広い知識と技術を修得し、一人ひとりのニーズに応えられる柔軟性と応用力を身に付け、現状を科学的に分析し、変化にも機敏に対応できる作業療法士の育成を目的とする。

8-3-2 アドミッションポリシー

1. 求める学生像

本学が入学者に求める要件を十分理解し、作業療法士として、豊かな人間性と自己研鑽の意欲を兼ね備え、日々進化する保健・医療・福祉分野に対応し、他者と協働しながら課題解決する力を養うことが期待できる人

2. 作業療法学科の入学者に求める要件

1) 知識・技能

高等学校までの教科・科目やボランティア活動・課外活動を通して、作業療法とその関連領域についての学修を主体的かつ協調的に展開できる、基礎的な知識と技能を有していること。

2) 思考力・判断力・表現力

保健・医療・福祉分野の課題解決に対して強い関心を持ち、論理的に思考・分析・判断し実行する力と他者との協働の基礎となるコミュニケーション能力を有していること。

3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

「共に生きる社会」の実現に貢献したいという強い意志を持ち、他者を尊重し思いやる豊かな人間性、物事に対して誠実に向き合う態度を身につけていること。

8-3-3 ディプロマポリシー

作業療法学科では所定の単位を修得し、次に掲げる学科の特性を考慮した学科ディプロマ・ポリシーを達成した学生に学位を授与する。

DP1：作業療法士を目指す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務と倫理観を身につけています。

DP2：作業療法士を目指す者として、基礎的学力を養い、関連職種の機能を理解し連携を図ることの出来るコミュニケーション力を身につけています。

DP3：作業療法士を目指す者として、作業療法実践に必要な他者への共感的態度および自己の治療的応用（Therapeutic Use of Self）を身につけています。

DP4：作業療法士を目指す者として、人々の生活機能を客観的・科学的に分析でき、作業療法を実践するために必要な専門的知識・技術を身につけています。

DP5：作業療法士を目指す者として、様々な状況において高度な専門的知識や技術を統合し創造的に課題解決に取り組む力を身につけています。

DP6：作業療法士を目指す者として、国内外問わず自らの活躍の場を模索し、生涯学習を行うことの重要性を認識し、科学的・創造的な探究心を持って作業療法分野の発展に向けて新しい知識を追求（研究活動）する方法を身につけています。

8-3-4 カリキュラムポリシー

作業療法学科では教育目標を学生が達成できるよう、次の方針に則り教育課程を編成・実施する。

CP1：作業療法分野の基礎知識を体系的に理解するとともに、多様な背景を持つ人々の生活や価値観を大切にし、社会生活を支える作業療法士を育成するための科目を設定する。

CP2：獲得した知識・技能・態度等を総合的に利用し、保健・医療・福祉の発展に寄与するため、人々の個別性に着目しながら科学的・創造的探究ができる作業療法士を育成するための科目を設定する。

CP3：多様な人々と協働していくために必要なコミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力を社会の中で汎用的に活用できる作業療法士を育成するための科目を設定する。

CP4：常に向上心を持って自己研鑽できる専門職業人としての高い倫理観を有し、人間の生命、人間としての尊厳および権利を尊重できる作業療法士を育成するための科目を設定する。

(教育目標)

<1年次 (SB0s1) >

- CP1：作業療法を含む保健医療福祉領域とその関連領域に関する基本的知識を修得する。
- CP2：人々や社会とのかかわりにおける作業療法の役割を理解する。
- CP3：作業療法学生として大学生活を送るにあたって必要な汎用的技能を身につける。
- CP4：大学生として保健医療福祉領域の学修を進めるにあたって必要な態度・志向性を身につける。

<2年次 (SB0s2) >

- CP1：作業療法専門分野および関連領域における基礎的知識を修得する。
- CP2：生活機能に応じた作業療法のかかわりを理解できる。
- CP3：作業療法分野の専門教育を深めるにあたって必要な汎用的技能を身につける。
- CP4：作業療法学生として専門教育を深めるにあたって必要な態度・志向性を身につける。

<3年次 (SB0s3) >

- CP1：作業療法専門分野および関連領域における応用的な知識を修得する。
- CP2：生活機能に応じた作業療法評価を実施できる。
- CP3：作業療法学生として臨床場面に参加するにあたって必要な汎用的技能を身につける。
- CP4：作業療法学生として臨床場面に参加するにあたって必要な態度・志向性を身につける。

<4年次 (SB0s4) >

- CP1：作業療法専門分野およびその関連領域における発展的な知識を修得する。
- CP2：生活機能に応じた作業療法による治療・訓練・支援を提供できる。
- CP3：作業療法士として職業生活を始めるにあたって必要な汎用的技能を身につける。
- CP4：作業療法士として職業生活を始めるにあたって必要な態度・志向性を身につける。

小田原保健医療学部 作業療法学科DP-教育目標カリキュラムマップ(2025年度入学生版)

黒字:必修科目 青字:選択科目

		ディプロマ・ポリシー(DP)						
		【DP1】 作業療法士を目指す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務と倫理観を身につけている。	【DP2】 作業療法士を目指す者として、基礎的学力を養い、関連職種の機能を理解し連携を図ることの出来るコミュニケーション力を身につけている。	【DP3】 作業療法士を目指す者として、作業療法実践に必要な他者への共感的態度および自己の治療的応用(Therapeutic Use of Self)を身につけている。	【DP4】 作業療法士を目指す者として、人々の生活機能を客観的・科学的に分析でき、作業療法を実践するため必要な専門的知識・技術を身につけている。	【DP5】 作業療法士を目指す者として、様々な状況において高度な専門的知識や技術を統合し創造的に課題解決に取り組む力を身につけている。	【DP6】 作業療法士を目指す者として、国内外問わず自らの活躍の場を模索し、生涯学習を行うことの重要性を認識し、科学的・創造的な探究心を持って作業療法分野の発展に向けて新しい知識を追求(研究活動)する方法を身につけている。	
各年次の教育目標(到達目標・SBOs)	1年次	【SBOs1/CP1】 作業療法を含む保健医療福祉領域とその関連領域に関する基本的知識を習得する	【DP1/SBOs1/CP1】 教育学、統計学、英語A-1、英語A-2、英語B-1、英語B-2、我が国の社会福祉・医療保障政策の知識、医療必修・医療の倫理とプロ意識・医療情報、公衆衛生学、データリテラシー 文学論、演劇論、心理学、哲学、コミュニケーション概論、雑談と傾聴～話す力と聞く力～、人間学、歴史学、倫理学、宗教学、日本近現代史、文化人類学、教育方法論、生死学～死を通して生を考える、法学、法と道徳・倫理、社会学、マスマディア論、経済学基礎Ⅰ、経済学基礎Ⅱ、組織運営管理論、医療関連法規、物理学、化学、生物学、データサイエンスとAIの基礎、医学/医療史、人間工学、総合講義、ドイツ語初級1、ドイツ語初級2、中国語初級1、中国語初級2、資格英語1、資格英語2、基礎英文法1、基礎英文法2、健康科學理論、健康科學実践、日本語I-A、日本語I-B、日本語II-A、日本語II-B、日本語II-C、日本語II-D、日本語III-A、日本語III-B、日本語III-C、日本語III-D※日本語は留学生のみ	【DP2/SBOs1/CP1】 ボランティア論、保健医療福祉制度論	【DP3/SBOs1/CP1】 臨床心理学概論 医療福祉教養講義、メディカルマナー入門	【DP4/SBOs1/CP1】 福祉支援工学概論	【DP5/SBOs1/CP1】 ケースワーク論、医療管理学、社会福祉学	【DP6/SBOs1/CP1】 国際医療福祉論
	2年次	【SBOs1/CP2】 人々や社会とのかかわりにおける作業療法の役割を理解する	【DP1/SBOs1/CP2】 基礎実習	【DP2/SBOs1/CP2】 リハビリテーション概論	【DP3/SBOs1/CP2】 作業療法概論	【DP4/SBOs1/CP2】 解剖学I、解剖学II、解剖学実習、生理学I、生理学II、生理学実習、運動学I、運動学II、運動学実習、作業工程技術学・基礎論、作業工程技術学・応用論	【DP5/SBOs1/CP2】	【DP6/SBOs1/CP2】
	3年次	【SBOs1/CP3】 作業療法学生として大学生活を送るにあたつて必要な汎用的技能を身につける	【DP1/SBOs1/CP3】	【DP2/SBOs1/CP3】	【DP3/SBOs1/CP3】	【DP4/SBOs1/CP3】	【DP5/SBOs1/CP3】	【DP6/SBOs1/CP3】
	4年次	【SBOs1/CP4】 大学生として保健医療福祉領域の学修を進めにあたつて必要な態度・志向性を身につける	【DP1/SBOs1/CP4】 大学入門講座-医療人・社会人として成長するために	【DP2/SBOs1/CP4】	【DP3/SBOs1/CP4】	【DP4/SBOs1/CP4】	【DP5/SBOs1/CP4】	【DP6/SBOs1/CP4】
	1年次	【SBOs2/CP1】 作業療法専門分野および関連領域における基礎的知識を習得する	【DP1/SBOs2/CP1】 英語A-3、英語A-4、英語C-1、英語C-2、医療データサイエンスⅠ(DS基礎)、医療データサイエンスⅡ(AI基礎)	【DP2/SBOs2/CP1】	【DP3/SBOs2/CP1】 対人援助論	【DP4/SBOs2/CP1】 運動生理学、病理学、内科学、神経学I、神経学II、整形外科学I、整形外科学II、精神医学I、精神医学II、小児科学、老年学、人間発達学、臨床薬理学概論 栄養学、外科学、脳神経外科学、神経心理学概論	【DP5/SBOs2/CP1】 検査実習	【DP6/SBOs2/CP1】 海外保健福祉事情I(講義) 海外保健福祉事情II(実習)
	2年次	【SBOs2/CP2】 生活機能に応じた作業療法のかかわりを理解できる	【DP1/SBOs2/CP2】	【DP2/SBOs2/CP2】 作業療法評価学概論、作業療法評価学各論、作業療法評価学演習、基礎運動機能評価法 上肢機能評価法、日常生活活動評価法	【DP3/SBOs2/CP2】 コミュニケーション技術論	【DP4/SBOs2/CP2】 作業分析学I、作業分析学II、生活技術学I	【DP5/SBOs2/CP2】	【DP6/SBOs2/CP2】
	3年次	【SBOs2/CP3】 作業療法分野の専門教育を深めるにあたつて必要な汎用的技能を身につける	【DP1/SBOs2/CP3】	【DP2/SBOs2/CP3】 医療情報学概論	【DP3/SBOs2/CP3】	【DP4/SBOs2/CP3】	【DP5/SBOs2/CP3】 生体情報処理概論、疫学・保健医療統計学	【DP6/SBOs2/CP3】
	4年次	【SBOs2/CP4】 作業療法学生として専門教育を深めるにあたつて必要な態度・志向性を身につける	【DP1/SBOs2/CP4】	【DP2/SBOs2/CP4】 救急医学	【DP3/SBOs2/CP4】	【DP4/SBOs2/CP4】 関連職種連携論 ケアマネジメント論	【DP5/SBOs2/CP4】	【DP6/SBOs2/CP4】
	1年次	【SBOs3/CP1】 作業療法専門分野および関連領域における応用的な知識を習得する	【DP1/SBOs3/CP1】	【DP2/SBOs3/CP1】	【DP3/SBOs3/CP1】 レクリエーション概論	【DP4/SBOs3/CP1】 リハビリテーション医学 リスクマネジメント論、	【DP5/SBOs3/CP1】 作業応用論	【DP6/SBOs3/CP1】 専門英語、研究法概論、研究法演習
	2年次	【SBOs3/CP2】 生活機能に応じた作業療法評価を実施できる	【DP1/SBOs3/CP2】	【DP2/SBOs3/CP2】	【DP3/SBOs3/CP2】	【DP4/SBOs3/CP2】 作業療法適用学概論、内科系疾患作業療法学、運動器疾患作業療法学、中枢神経疾患作業療法学I、中枢神經疾患作業療法学II、精神疾患作業療法学I、精神疾患作業療法学II、小児作業療法学I、小児作業療法学II、老年作業療法学、認知障害作業療法学、生活技術学II、障害代償学概論、自助具・福祉機器適用論、住環境整備論、地域リハビリテーション実習 認知機能評価法、作業療法応用学概論、就学・就労支援論、義肢適用論、装具・副子適用論、パリアフリーライン	【DP5/SBOs3/CP2】	【DP6/SBOs3/CP2】
	3年次	【SBOs3/CP3】 作業療法学生として臨床場面に参加するにあたつて必要な汎用的技能を身につける	【DP1/SBOs3/CP3】	【DP2/SBOs3/CP3】	【DP3/SBOs3/CP3】	【DP4/SBOs3/CP3】	【DP5/SBOs3/CP3】 評価実習、臨床実習特論 臨床実習ゼミI、臨床実習ゼミII	【DP6/SBOs3/CP3】
	4年次	【SBOs3/CP4】 作業療法学生として臨床場面に参加するにあたつて必要な態度・志向性を身につける	【DP1/SBOs3/CP4】 作業療法の諸外国事情	【DP2/SBOs3/CP4】	【DP3/SBOs3/CP4】 職業関連技術学	【DP4/SBOs3/CP4】	【DP5/SBOs3/CP4】 関連職種連携ワーク、地域生活作業療法論 地域ケアシステム論	【DP6/SBOs3/CP4】
	1年次	【SBOs4/CP1】 作業療法専門分野およびその関連領域における発展的な知識を習得する	【DP1/SBOs4/CP1】 作業療法倫理・管理	【DP2/SBOs4/CP1】	【DP3/SBOs4/CP1】	【DP4/SBOs4/CP1】	【DP5/SBOs4/CP1】 作業療法適用学特論	【DP6/SBOs4/CP1】 作業療法総括論 作業療法諸理論
	2年次	【SBOs4/CP2】 生活機能に応じた作業療法による治療・訓練・支援を提供できる	【DP1/SBOs4/CP2】	【DP2/SBOs4/CP2】	【DP3/SBOs4/CP2】	【DP4/SBOs4/CP2】 関連職種連携実習	【DP5/SBOs4/CP2】 総合実習I、総合実習II	【DP6/SBOs4/CP2】
	3年次	【SBOs4/CP3】 作業療法士として職業生活を始めるにあたつて必要な汎用的技能を身につける	【DP1/SBOs4/CP3】	【DP2/SBOs4/CP3】	【DP3/SBOs4/CP3】	【DP4/SBOs4/CP3】	【DP5/SBOs4/CP3】 卒業研究	【DP6/SBOs4/CP3】
	4年次	【SBOs4/CP4】 作業療法士として職業生活を始めるにあたつて必要な態度・志向性を身につける	【DP1/SBOs4/CP4】	【DP2/SBOs4/CP4】	【DP3/SBOs4/CP4】	【DP4/SBOs4/CP4】	【DP5/SBOs4/CP4】	【DP6/SBOs4/CP4】

小田原保健医療学部作業療法学科 履修系統図(2025年度入学生)

カリキュラムポリシー

- CP1:**作業療法分野の基礎知識を体系的に理解するとともに、多様な背景を持つ人々の生活や価値観を大切にし、社会生活を支える作業療法士を育成するための科目を設定する。

CP2:獲得した知識・技能・態度等を総合的に利用し、保健・医療・福祉の発展に寄与するため、人々の個別性に着目しながら科学的・創造的探究ができる作業療法士を育成するための科目を設定する。

CP3:多様な人々と協働していくために必要なコミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力を社会の中で汎用的に活用できる作業療法士を育成するための科目を設定する。

CP4:常に向上心を持って自己研鑽できる専門職業人としての高い倫理観を有し、人間の生命、人間としての尊厳および権利を尊重できる作業療法士を育成するための科目を設定する。

ディプロマポリシー

- DP1**：作業療法士を目指す者として、建学の精神である「共に生きる社会」の実現を目指し、幅広い教養、豊かな感性、人間理解、国際的感覚を養い、社会的責務と倫理観を身につけています。

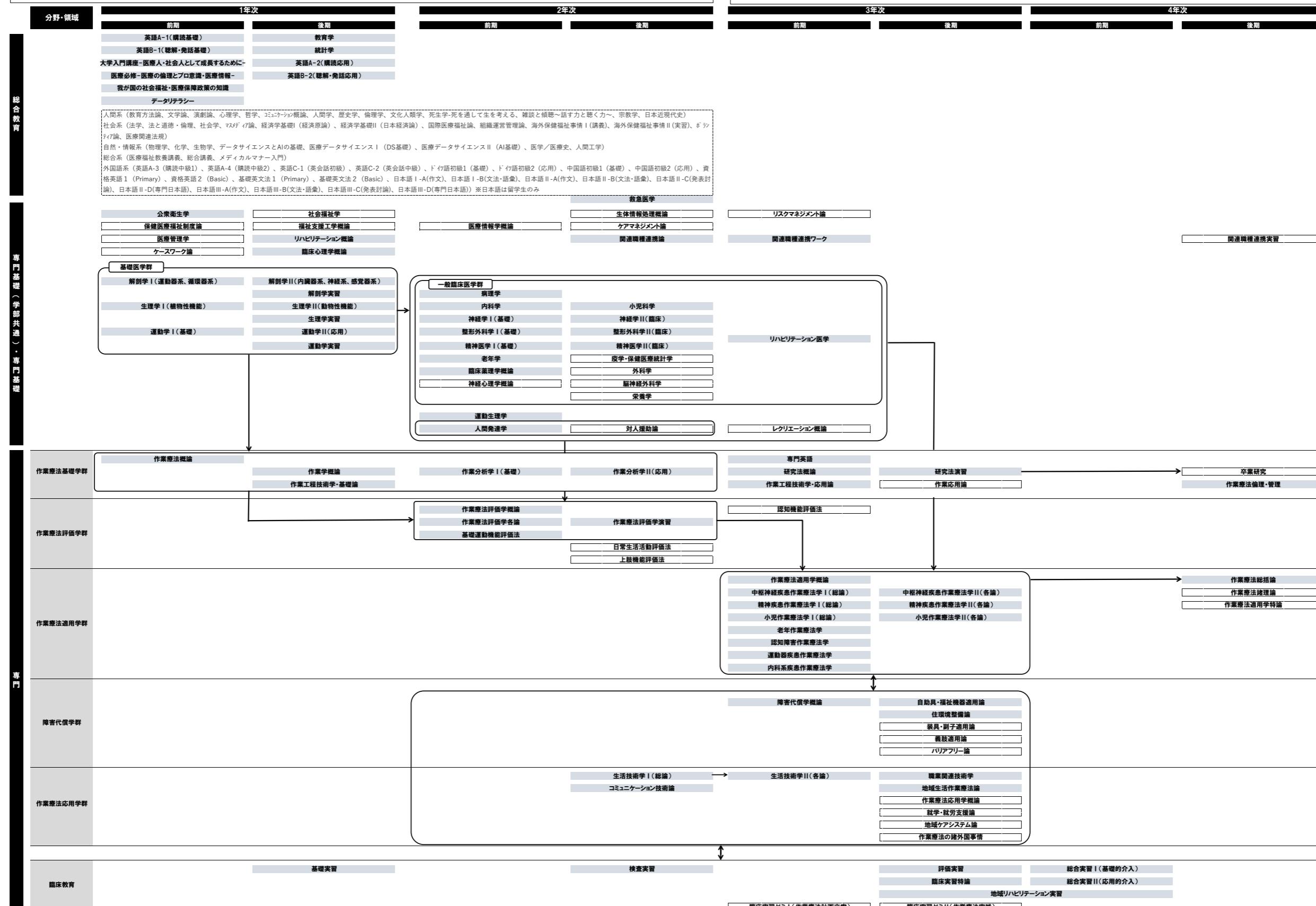
DP2：作業療法士を目指す者として、基礎的学力を養い、関連職種の機能を理解し連携を図ることの出来るコミュニケーション力を身につけています。

DP3：作業療法士を目指す者として、作業療法実践に必要な他者のへの共感的態度および自己の治療的応用（Therapeutic Use of Self）を身につけています。

DP4：作業療法士を目指す者として、人々の生活機能を客観的・科学的に分析でき、作業療法を実践するためには専門的知識・技術を身につけています。

DP5：作業療法士を目指す者として、様々な状況において高度な専門的知識や技術を統合し創造的に課題解決に取り組む力を身につけています。

DP6：作業療法士を目指す者として、国内外問わず自らの活躍の場を模索し、生涯学習を行うことの重要性を認識し、科学的・創造的な探究心を持って作業療法分野の発展に向けて新しい知識を追求（研究活動）する方法を身につけています。



必修科目
選択科目

8-3-5 卒業要件

下記に定める卒業に必要な単位数（必修科目すべてと選択科目）を修得しなければなりません。なお、必修科目については、「8-3-6 授業科目一覧」を参照してください。

- (1) 卒業に必要な単位数【作業療法学科 2025（令和7）年度入学生】

卒業要件(作業療法学科)

区分	最低単位数			備考
	必修	選択		
総合教育	人間系	2	4以上	授業科目一覧で、各系の必修科目を確認すること 選択科目は、各系からそれぞれ指定されている単位数分を修得し、更に、総合教育全体から1単位以上修得すること 自然・情報系と保健体育系の1**は自然・情報系及び保健体育系のいずれかから1単位以上選択の意味。
	社会系	1	2以上	
	自然・情報系	4	1**	
	総合系	1	—	
	外国語系	4	2以上	
	保健体育系	—	1**	
	小計	12	10以上	
専門教育	専門基礎	33	12以上	
	専門	59		
	小計	92	12以上	
計		104	22以上	
卒業単位数合計		126単位以上		

8-3-6 進級条件

- (1) 1学年から2学年への進級条件

1学年の必修科目の単位未修得科目が4科目以下であること。

- (2) 2学年から3学年への進級条件

2学年までの必修科目の単位未修得科目が2科目以下であり、基礎実習・検査実習の単位を修得していること。

- (3) 3学年から4学年への進級条件

3学年までの必修科目の単位を全て修得していること。

※（履修登録上限単位数）

すべての学年において、1年間に履修登録できる単位数を50単位未満とする。

8-3-7 授業科目一覧（作業療法学科）

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
総合教育	人間系	文学論	1	2 3 4	2	30
		演劇論	1	2 3 4	1	15
		心理学	1	2 3 4	2	30
		哲学	1	2 3 4	2	30
		コミュニケーション概論	1	2 3 4	2	30
		雑談と傾聴～話す力と聞く力～	1	2 3 4	2	30
		人間学	1	2 3 4	2	30
		歴史学	1	2 3 4	2	30
		倫理学	1	2 3 4	2	30
		宗教学	1	2 3 4	2	30
		日本近現代史	1	2 3 4	2	30
		文化人類学	1	2 3 4	2	30
		教育学	1		2	30
		教育方法論	1	2 3 4	2	30
		死生学-死を通して生を考える	1	2 3 4	2	30
	社会系	法学	1	2 3 4	2	30
		法と道德・倫理	1	2 3 4	2	30
		社会学	1	2 3 4	2	30
		マスマディア論	1	2 3 4	2	30
自然・情報系		経済学基礎Ⅰ(経済原論)	1	2 3 4	2	30
		経済学基礎Ⅱ(日本経済論)	1	2 3 4	2	30
		国際医療福祉論	1	2 3 4	2	30
		組織運営管理論	1	2 3 4	2	30
		海外保健福祉事情Ⅰ(講義)	2	3 4	1	30
		海外保健福祉事情Ⅱ(実習)	2	3 4	1	45
		我が国の社会福祉・医療保障政策の知識	1		1	30
		ボランティア論	1	2 3 4	2	30
		医療関連法規	1	2 3 4	2	30
		統計学	1		2	30
		物理学	1	2 3 4	2	30
		化学	1	2 3 4	2	30
		生物学	1	2 3 4	2	30
		データリテラシー	1		1	30
総合系		データサイエンスとAIの基礎	1	2 3	1	30
		医療データサイエンスⅠ(DS基礎)	2	3 4	1	30
		医療データサイエンスⅡ(AI基礎)	2	3 4	1	30
		医療必修—医療の倫理とプロ意識・医療情報—	1		1	30
		医学/医療史	1	2 3 4	2	30
外国語系	人間工学		1	2 3 4	2	30
		大学入門講座—医療人・社会人として成長するために—	1		1	30
		総合講義	1	2 3	1	15
		医療福祉教養講義	1	2 3 4	1	15
		メディカルマナー入門	1	2 3 4	2	30
		英語A-1(講読基礎)	1		1	30
		英語A-2(講読応用)	1		1	30
		英語B-1(聽解・発話基礎)	1		1	30
		英語B-2(聽解・発話応用)	1		1	30
		英語A-3(講読中級1)	2	3 4	1	30
		英語A-4(講読中級2)	2	3 4	1	30
		英語C-1(英会話初級)	2	3 4	1	30
		英語C-2(英会話中級)	2	3 4	1	30
		資格英語1(Primary)	1	2 3 4	1	30
		資格英語2(Basic)	1	2 3 4	1	30
系 体 保 健		基礎英文法1(Primary)	1	2 3 4	1	30
		基礎英文法2(Basic)	1	2 3 4	1	30
		ドイツ語初級1(基礎)	1	2 3 4	1	30
		ドイツ語初級2(応用)	1	2 3 4	1	30
		中国語初級1(基礎)	1	2 3 4	1	30
		中国語初級2(応用)	1	2 3 4	1	30
	健康科学理論		1	2 3 4	1	15
	健康科学実践		1	2 3 4	1	30

8-3-7 授業科目一覧（作業療法学科）

授業科目の名称		配当年次	単位数		時間	備考
			必修	選択		
専門教育 専門基礎（学部共通）	公衆衛生学	1	2		30	卒業要件にて、専門基礎の修得単位を確認してください。
	救急医学	2	1		15	
	リハビリテーション概論	1	2		30	
	関連職種連携論	2	2		30	
	関連職種連携ワーク	3	1		30	
	関連職種連携実習	4		1	45	
	ケアマネジメント論	2		1	15	
	ケースワーク論	1		1	15	
	医療管理学	1		2	30	
	保健医療福祉制度論	1		2	30	
	社会福祉学	1		2	30	
	臨床心理学概論	1	2		30	
	医療情報学概論	2		2	30	
	生体情報処理概論	2		2	30	
	福祉支援工学概論	1		2	30	
専門基礎	リスクマネジメント論	3		2	30	
	疫学・保健医療統計学	2		2	30	
	解剖学 I (運動器系、循環器系)	1	1		30	
	解剖学 II (内臓器系、神経系、感覚器系)	1	1		30	
	解剖学実習	1	1		45	
	生理学 I (植物性機能)	1	1		30	
	生理学 II (動物性機能)	1	1		30	
	生理学実習	1	1		45	
	運動学 I (基礎)	1	1		30	
	運動学 II (応用)	1	1		30	
	運動学実習	1	1		45	
	運動生理学	2	1		30	
	病理学	2	1		30	
	内科学	2	1		30	
	神経学 I (基礎)	2	1		30	
	神経学 II (臨床)	2	1		30	
	整形外科学 I (基礎)	2	1		30	
	整形外科学 II (臨床)	2	1		30	
	精神医学 I (基礎)	2	1		30	
	精神医学 II (臨床)	2	1		30	
	小児科学	2	1		30	
	老年学	2	1		30	
	リハビリテーション医学	3	1		30	
	人間発達学	2	1		30	
	臨床薬理学概論	2	1		15	
専門	栄養学	2		1	15	
	外科学	2		1	15	
	脳神経外科学	2		1	30	
	神経心理学概論	2		1	30	
	レクリエーション概論	3		1	15	
	対人援助論	2		1	15	
	専門英語	3	1		30	
	作業療法概論	1	1		15	
	作業学概論	1	1		15	
	作業工程技術学・基礎論	1	1		30	
	作業工程技術学・応用論	3	1		30	
	作業分析学 I (基礎)	2	1		30	
	作業分析学 II (応用)	2	1		30	
	作業応用論	3		1	30	
	研究法概論	3	1		15	
	研究法演習	3	1		30	
	卒業研究	4		1	30	

8-3-7 授業科目一覧（作業療法学科）

専門教育	専門	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間	備考
				必修	選択		
		作業療法倫理・管理	4	2		30	卒業要件にて、専門の修得単位を確認してください。
		作業療法評価学概論	2	1		30	
		作業療法評価学各論	2	1		30	
		作業療法評価学演習	2	1		30	
		基礎運動機能評価法	2	1		30	
		上肢機能評価法	2		1	15	
		日常生活活動評価法	2		1	15	
		認知機能評価法	3		1	15	
		作業療法諸理論	4		1	15	
		作業療法適用学概論	3	1		15	
		内科系疾患作業療法学	3	1		30	
		運動器疾患作業療法学	3	1		30	
		中枢神経疾患作業療法学 I (総論)	3	1		30	
		中枢神経疾患作業療法学 II (各論)	3	1		30	
		精神疾患作業療法学 I (総論)	3	1		30	
		精神疾患作業療法学 II (各論)	3	1		30	
		小児作業療法学 I (総論)	3	1		30	
		小児作業療法学 II (各論)	3	1		30	
		老年作業療法学	3	1		30	
		認知障害作業療法学	3	1		30	
		作業療法適用学特論	4		1	15	
		作業療法応用学概論	3		1	15	
		就学・就労支援論	3		1	15	
		生活技術学 I (総論)	2	1		30	
		生活技術学 II (各論)	3	1		30	
		コミュニケーション技術論	2	1		30	
		職業関連技術学	3	1		30	
		作業療法の諸外国事情	3		1	15	
		地域生活作業療法論	3	1		30	
		地域ケアシステム論	3		1	15	
		障害代償学概論	3	1		30	
		義肢適用論	3		1	15	
		装具・副子適用論	3		1	30	
		自助具・福祉機器適用論	3	1		30	
		住環境整備論	3	1		30	
		バリアフリー論	3		1	15	
		臨床実習特論	3	1		15	
		作業療法総括論	4	1		30	
		基礎実習	1		1	45	
		検査実習	2		2	90	
		評価実習	3	5		225	
		総合実習 I (基礎的介入)	4	7		315	
		総合実習 II (応用的介入)	4	7		315	
		地域リハビリテーション実習	3	4	1	45	
		臨床実習ゼミ I (作業療法計画立案)	3		1	15	
		臨床実習ゼミ II (作業療法実践)	3		1	15	

「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則」教育内容において
2020年度入学生から新たに含まれる内容と本学対応科目

作業療法学科

指定規則教育内容		対応する科目					
		2020年度入学生から 含まれる内容	授業科目の名称	配当年次	必修	選択	時間
専門基礎分野	疾の成り立ち及び回復過程と障害の促進	栄養	リハビリテーション医学	3	1		30
		薬理	臨床薬理学概論	2	1		15
		医用画像	リハビリテーション医学	3	1		30
		救急救命	救急医学	2	1		15
		予防	リハビリテーション医学	3	1		30
	福祉理念とリハビリ	自立支援	リハビリテーション概論	1	2		30
		就労支援	リハビリテーション概論	1	2		30
		地域包括ケアシステム	リハビリテーション概論	1	2		30
		多職種連携	関連職種連携ワーク	3	1		30
専門分野	作業療法管理学	職場管理	作業療法倫理・管理	4	2		30
		作業療法教育	作業療法倫理・管理	4	2		30
		職業倫理	作業療法倫理・管理	4	2		30
	学法作評業価療	医用画像評価	作業療法評価学各論	2	1		30
	学法作治業療	喀痰等の吸引	内科系疾患作業療法学	3	1		30
	臨床実	通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習(1単位以上)	地域リハビリテーション実習	3	4	1	45

8-4 留学生の要件

留学生用日本語科目(小田原保健医療学部)

授業科目の名称			配当年次		単位数		時間	備考
総合教育 外国語系	必修		選択					
	日本語 I -A(作文)	1 2 3 4			1	30		
	日本語 I -B(文法・語彙)	1 2 3 4			1	30		
	日本語 II -A(作文)	1 2 3 4			1	30		
	日本語 II -B(文法・語彙)	1 2 3 4			1	30		
	日本語 II -C(発表討論)	1 2 3 4			1	30		
	日本語 II -D(専門日本語)	1 2 3 4			1	30		
	日本語 III -A(作文)	1 2 3 4			1	30		
	日本語 III -B(文法・語彙)	1 2 3 4			1	30		
	日本語 III -C(発表討論)	1 2 3 4			1	30		
	日本語 III -D(専門日本語)	1 2 3 4			1	30		

卒業要件(看護学科 留学生)

(外国語系に関する注意事項)

- 10 → 原則として日本語科目10単位修得。うち、2単位までは日本語科目以外の外国語科目をもってかえる事が可能(但し、母国語以外)。「外国人のための日本語能力テスト」の得点により日本語科目の単位を最大3単位まで認定可。

区分	最低単位数			備考
	必修	選択		
総合教育	人間系	2	—	授業科目一覧で、各系の必修科目を確認すること 選択科目は、各系で指定されている単位数分を修得し、更に、総合教育全体から3単位以上修得すること 修得が必要になる日本語科目は、別表を確認すること
	社会系	1	—	
	自然・情報系	5	—	
	総合系	1	—	
	外国語系	—	●10以上	
	保健体育系	—	—	
	小計	9	13以上	
専門教育	専門基礎	28	2以上	
	専門	70	2以上	
	小計	98	4以上	
計		107	17以上	
卒業単位数合計		124単位以上		

進級要件(看護学科)

(2学年から3学年)

専門基礎と専門の学科必修科目の単位のうち、単位未修得科目が2科目以下であること。

ただし、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。

(3学年から4学年)

実習の必修科目で、単位未修得実習科目が2科目4単位以下であること。

(履修登録上限単位数)

すべての学年において、1年間に履修登録できる単位数を50単位未満とする。

「看護師」 + 「保健師」

総合教育、専門教育ともに保健師課程で必要な選択科目を授業科目一覧で確認すること

区分	最低単位数		備考
	必修	選択	
総合教育	人間系	2	-
	社会系	1	-
	自然・情報系	5	-
	総合系	1	-
	外国語系	-	●10以上
	保健体育系	-	-
	小計	9	13以上
専門教育	専門基礎	28	1以上
	専門	70	15以上
	小計	98	16以上
計		107	29以上
必要単位数合計		136単位以上（卒業単位 + 保健師受験資格）	

「看護師」 + 「養護教諭一種免許」

総合教育、専門教育ともに教職課程（養護教諭一種免許）で修得が必要な選択科目を授業科目一覧で確認すること

区分	最低単位数		備考
	必修	選択	
総合教育	人間系	2	-
	社会系	1	-
	自然・情報系	5	-
	総合系	1	-
	外国語系	-	●10以上
	保健体育系	-	-
	小計	9	16以上
専門教育	専門基礎	28	17以上
	専門	70	6以上
	小計	98	23以上
計		107	39以上
必要単位数合計		146単位以上（卒業単位 + 教員免許取得）	

「看護師」 + 「保健師」 + 「養護教諭一種免許」

総合教育、専門教育ともに保健師課程及び教職課程（養護教諭一種免許）で修得が必要な選択科目を授業科目一覧で確認すること

区分	最低単位数		備考
	必修	選択	
総合教育	人間系	2	－
	社会系	1	－
	自然・情報系	5	－
	総合系	1	－
	外国語系	－	●10以上
	保健体育系	－	－
	小計	9	16以上
専門教育	専門基礎	28	18以上
	専門	70	21以上
	小計	98	39以上
計		107	55以上
必要単位数合計		162単位以上(卒業単位 + 保健師受験資格 + 教員免許取得)	

卒業要件(理学療法学科 留学生)

(外国語系に関する注意事項)

- 10→ 原則として日本語科目10単位修得。うち、2単位までは日本語科目以外の外国語科目をもってかえる事が可能(但し、母国語以外)。「外国人のための日本語能力テスト」の得点により日本語科目の単位を最大3単位まで認定可。

区分	最低単位数			備考
	必修	選択		
総合教育	人間系	—	—	授業科目一覧で、各系の必修科目を確認すること 選択科目は、各系で指定されている単位数分を修得し、更に、総合教育全体から8単位以上修得すること 修得が必要になる日本語科目は、別表を確認すること
	社会系	1	—	
	自然・情報系	2	—	
	総合系	1	—	
	外国語系	—	●10以上	
	保健体育系	—	—	
	小計	4	18以上	
専門教育	専門基礎	34	12以上	
	専門	58		
	小計	92	12以上	
計		96	30以上	
卒業単位数合計		126単位以上		

進級要件 (理学療法学科)

(2学年から3学年)

2学年までの全必修科目のうち単位未修得科目が2科目以下であること

(3学年から4学年)

3学年までの必修科目の単位をすべて修得していること

(履修登録上限単位数)

すべての学年において、1年間に履修登録できる単位数を50単位未満とする。

卒業要件(作業療法学科 留学生)

(外国語系に関する注意事項)

- 10 → 原則として日本語科目10単位修得。うち、2単位までは日本語科目以外の外国語科目をもってかえる事が可能(但し、母国語以外)。「外国人のための日本語能力テスト」の得点により日本語科目の単位を最大3単位まで認定可。

区分	最低単位数		備考
	必 修	選 択	
総合教育	人間系	2	授業科目一覧で、各系の必修科目を確認すること 選択科目は、各系で指定されている単位数分を修得し、更に、総合教育全体から1単位以上修得すること 自然・情報系と保健体育系の1**は自然・情報系及び保健体育系のいずれかから1単位以上選択の意。 修得が必要になる日本語科目は、別表を確認すること
	社会系	1	
	自然・情報系	4	
	総合系	1	
	外国語系	—	
	保健体育系	—	
	小計	8	
専門教育	専門基礎	33	12以上
	専 門	59	
	小計	92	
計		26以上	
卒業単位数合計		126単位以上	

進級要件（作業療法学科）

(1学年から2学年)

1学年の必修科目の単位未修得科目が4科目以下であること。

(2学年から3学年)

2学年までの必修科目の単位未修得科目が2科目以下であり、基礎実習・検査実習の単位を修得していること。

(3学年から4学年)

3学年までの必修科目の単位を全て修得していること。

(履修登録上限単位数)

すべての学年において、1年間に履修登録できる単位数を50単位未満とする。

8-5 アセスメントポリシー

本学では、教育成果を可視化し、教育改善を実施する目的で、3つのポリシー（アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー）を踏まえて、教育課程や学生の学修成果を測定・評価する方法（アセスメントポリシー）を定めています。測定・評価は入学時から卒業時までとし、機関レベル（大学）・教育課程レベル（学部・学科）・科目レベル（授業科目）の3段階で多面的に実施します。

1. 機関レベル（大学）

学生の卒業率、退学率、志望進路（就職率、進学率）等から教育課程及び学修成果の達成状況を評価します。

2. 教育課程レベル（学部・学科）

学部・学科の所定の教育課程における卒業要件達成状況（単位取得状況、GPA）、資格・免許の取得状況等から教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を評価します。

3. 科目レベル（授業科目）

シラバスで提示された学修目標に対する評価や授業評価アンケート等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を評価します。

○具体的な評価方法等は次の表のとおりです。

一部、各学科により実施していない項目があります。

	入学時 アドミッションポリシーを満たす人材かどうかの評価	在学中 カリキュラムポリシーに則って学修が進められているかどうかの評価	卒業時 ディプロマポリシーを満たす人材になったかどうかの評価
機関レベル (大学)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・調査書等の記載内容 ・面接、志願理由書等 	<ul style="list-style-type: none"> ・休学率 ・退学率 ・学修行動調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業率 ・学位授与数 ・就職率 ・進学率(主として大学院)
教育課程レベル (学部・学科)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・調査書等の記載内容 ・面接、志願理由書等 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA※ ・修得単位数 ・進級率 ・学修行動調査 ・OSCE※ 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA※ ・国家試験合格者数 ・国家試験合格率 ・資格取得率 ・進路状況 ・卒業時到達度アンケート
科目レベル (授業科目)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時基礎学力調査 ・TOEIC Bridge Test 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価(定期試験) ・学修ポートフォリオ ・授業評価アンケート ・TOEIC IP(L&R) 	

※GPA : Grade Point Average 学生が履修登録した科目1単位当たりの成績平均値。

※OSCE : Objective Structured Clinical Examination (客観的臨床能力試験) 学生の模擬患者に対するインタビュー や臨床の現場で必要な基本的技能の実技を、評価者が観察し、客観的に評価する試験。